

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

1894/11 (晴)

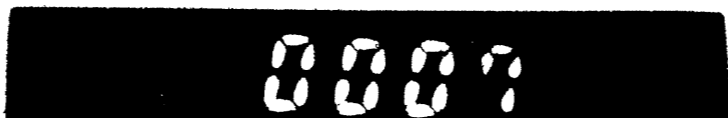
福政後  
本有者  
大正七年  
三月二日  
午後七時

内田外務大臣

森野幸次郎

第六二號

福建清鄉督辦處ヨリ好タル情報ニ依レハ薩督辦ヨリ密使ヲ廣東ニ派シテ  
右派シタル結果近來南北海軍ノ意思ハ全ク統一シ薩ノ命令アリ次第各  
府既レモ福建ニ某年スルモ答トナリ居レリト云  
ホ南方派ハ貝下厦門砲台  
中 應瑞通海ヨリテ一應廣東



へ回航せしメタキ希望ヲ有スルカ如キモ  
往々不利甚ナル事情モ有ルニ付薩ヨ  
リ右各艦ニ対シ於際南下スルコトハ  
之ヲ見合ハスベキ旨先報セリ  
閩江々口ヲヨモシノ砲臺ハ北兵ニテ守  
備シ居レルが過日海軍側ヨリ督軍  
ニ対シ右古備ヲ海軍陸战队ノ手  
ニ移サシコトヲ提議シタルニ李厚基  
ハ之ヲ拒絶セリ然ルニ右砲台ノ大砲  
ハ孰レモ海軍ヨリ貸与セルモノナルヲ

ヲ以テ更ニ海軍側ヨリ李督軍ニ  
対シ其返還方ヲ迫リ既ニ大砲ノ各  
要部ヲ取りおシテ海軍ノ手ニ保護  
シ居レリトノコトナリ

(厦門へ電報セリ)



外

第18649號

大正七年三月十一日 接電

十一月八日  
十一月七日午後五時五分發  
十一月八日午前九時四十五分着

電報  
宛長

在廣東 井上中佐

廣東電第二十三號  
情報ニ依リハ左廈門童保暉ハ兩三日其前其軍隊ヲ涵  
江ヲ移動シ漳州ニ向テ攻勢ニ轉シ、又由童ハ既報ノ如  
ク南方ニ投スル筈ナリシモ呂公望ト志願通セサ  
ルト北方ヨリ成功ノ上浙江督軍ニ屈映光ヲ同者長ニ  
童保暉ヲ又福建督軍ニ薩鎮冰ヲ同者長ニ黃培松  
ヲ任命シテ浙江主義、福建主義ヲ實行スル以テ  
為其意思ヲ離シタルモノナリト傳ヘラレ

陸軍

5-1415

0009

秘

授受18774號

大正七年十一月拾日接受

臺參謀第四三號

大正七年十一月四日

臺灣總督府陸軍參謀部

駐發爲

第一課



手形付



南支情報第四三號

浙江軍ノ投南ニ就テ

一 緒言

二 童葆暄所部ノ浙江軍投南ノ原因

三 浙軍ノ投南ト北軍ノ退却

四 結言

同部委員



浙江軍ノ投南ニ就テ

一、緒言

段祺瑞ノ武力統一政策漸ク北洋派ヲ風靡シ平和主義ヲ標榜セル長江三督軍等モ周圍ノ狀勢上將ニ武斷主義ノ渦中ニ投セントシアリシ際岑春煊居中調停ノ不可能ナルヲ察シ孫文ニ代リテ來廣シ西南實力派ヲ結束シテ立チ段ノ自覺ヲ促サントスルニ至ルヤ由來不徹底ノ言動ヲ以テ漁夫ノ利ヲ占ムルヲ事トセル馮ハ暗ニ西南ニ好意ヲ表シ段勢力ノ驅逐ヲ策シ先ツ湖南前敵ノ饒將吳佩孚ヲ説テ停戰セシメ曹琨張懷芝及長江三督軍ヨリ連合

シテ徐々ニ武斷主義ニ反對ノ氣勢ヲ示シ來リ前敵各司令續テ口實ヲ設ケ戰ヲ避クルニ至リシモ獨リ福建方面ニ於テハ切りニ新銳ノ軍隊ヲ加ヘ省境ヲ越ヘテ廣東ニ侵入シ此方面ニ於ケル南軍ノ策源地タル潮州及汕頭ハ將ニ旬日ナラスシテ北軍ノ手ニ歸セントシ南方ノ運命或ハ是ニヨリテ決セラレント杞憂セララルモノアリシカ八月二十六日浙軍投南ノ報軍政府ニ達シ各員覺エス萬歳ヲ唱ヘタリト云フ

二、童葆暄所部ノ浙江軍投南ノ原因

現ニ童葆暄ノ率ユル浙江軍ハ元呂公望ノ部スル所ニシテ其將卒中約九割ハ盡ク呂公望ノ

郷里タル金化附近ノ産ニシテ同郷相寄ルノ念慮  
強キ支那人ハ臺州人タル童葆暄ヲ現師長トシテ  
推戴スルヲ好マス依然舊督軍タル呂公望ニ對  
シ敬慕ノ情ヲ通シアリシハ決ニテ今日ニ始マリシ  
事ニアラス其福建ニ派遣セラレ前敵ニ使用セラルル  
ヤ呂公望ノ潮州附近ニアルヲ知り或ハ夜暗ヲ利  
用シ或ハ服装ヲ變ニテ南軍ニ投セントセシコト一  
再ニ止マラス然ルニ從來此關係ヲ知ラサル滇軍  
將卒ハ乏ヲ以テ却テ我ヲ謀ルトナシ益々警備  
ヲ嚴ニシ其近接ヲ拒止シ彼等モ遂ニ意志ノ  
疎通ヲ得ルニ由ナク一方童葆暄ハ部下ノ將卒  
投南ノ志アルヲ察セシ以來或ハ南軍ニ投スレハ

殺害セラルヘシト教ヘ或ハ給養粗惡ニシテ  
餓死スヘシト偽リ且將校ニ嚴達ニテ日夜  
監視ヲ怠ラサリシ爲空シク時機ノ至ルヲ  
待テリ茲ニ於テ軍政府ハ元浙江省巡按使  
タリシ蔣尊簋（日本士官學校ノ卒業生ニシ  
テ浙江ノ人）及呂公望ヲ浙軍宣撫使ニ命  
ジ密ニ浙軍ニ運動セシム八月上旬呂公望ハ  
單身饒平ニ元自己ハ遊長タリシ童葆暄ヲ  
訪ヒ大勢ヲ説テ投南ヲ勸告ス時ニ童八周  
圍ノ狀況上未タ其時機ニアラサルモ若シ  
段祺瑞ニシテ現位置ヲ去ラハ必南軍ノ爲  
ニ盡カスル所アルヘシト述ヘ且浙軍ハ

自ラ進テ南軍ヲ攻撃スルヲ避クヘキヲ約セリト  
云フ童トノ會見ハ大ナル効果ナカリシモ呂  
公望ハ此時密カニ當時饒平ニアリシ湘軍  
支隊長陳肇英ニ會見シ投南ヲ勸告シ其  
承諾ヲ得且之ニ關シ種々協議セル後潮  
州ニ歸來セリ

三、浙軍ノ投南ト北軍ノ退却

北軍ハ七月末以來陳炯明軍活動ヲ始メ  
潮州方面ニ顧慮ナク暴リニ福建省内ニ進  
入シ省内ノ民軍ト協力シ動モスレハ其側背  
ニ危険ヲ感スルモノアルニ至リシヲ見斷然  
前面ノ滇軍陣地ヲ突破シ南軍ノ根據地  
ヲ覆スニ決シ八月中旬ヨリ前進ヲ起シ逐次

龍城、樟林等ノ要地ヲ占領シ饒平方面モ  
滇軍先進部隊次第ニ北軍ノ爲壓迫セラレ  
辛フシテ烏石、東方鳳凰壩ノ本陣地ヲ保  
持スルニ至レリ是ヨリ先呂公望ニ依リ投南ヲ  
勸告セラレ之ヲ快諾シアリシ浙軍團長陳肇英  
ハ童師長ノ命ヲ受ケ歩兵一團(三營)山砲四  
門機關銃一連ヲ指揮シ八月二十三日饒平ヲ  
出發シ鳳凰壩以南ノ滇軍陣地ヲ攻撃中  
ナル浙軍ノ最右翼ニ増加シ攻撃ヲ開始シ  
滇軍ハ呂公望ヨリノ通告ニヨリ浙軍トノ協  
議ニ基キ二十四日夕偽テ陣地ノ守ヲ撤シ其ノ

後方ニ集結シ陳ノ所部ヲ陣地内ニ誘致シ而シテ陳ハ所部ト共ニ蔣尊蓋、呂公望等ニ迎ヘラレ翌二十五日潮州城ニ入り此正面ニ在リシ滇軍ハ旅長伍毓瑞ノ指揮ヲ以テ警戒ヲ缺ケル浙軍及福建軍ノ右翼ヲ攻撃シ樟林方面モ劉志陸軍ノ増援ヲ得全線攻撃ニ轉ス北軍ハ情況ノ急變ニ抗スルヲ得ス二十六日ヨリ退却ヲ開始シ南軍勢ニ乘シテ進撃ニ十七日黃崗ヲ三十日饒平ヲ占領次テ北軍ヲ分水關老虎汎ノ線ニ壓迫ス此間陳炯明軍ハ大埔恢復以來各地ノ戰鬥悉ク勝利ヲ得左翼許崇智ノ指揮スル第二支隊ハ汀州ハ屬ヲ合セ延

平ニ進入シ第一支隊長李炳榮ハ龍巖ヲ攻畧シ漳平寧洋ヲ占領シテ永春三屬ノ民軍ト連絡シ斯クテ北方ニ對シテハ一時守勢ヲ取り陳炯明自ラ第四支隊及第一支隊ノ主力並ニ總豫備隊ヲ率ヒ二十八日直ニ南靖ヲ攻撃シテ之ヲ占領シ遂ニ勢ニ乘シテ三十日漳州ヲ占領當時漳州ハ浙軍一部ノ投南ニヨリ福建軍及浙江軍間ニ内虹ヲ生シ友軍將ニ相撃ツノ狀ヲ呈シタルカ爲南軍ノ攻撃ヲ受クルヤ大カル抵抗ヲナスコトナク巨多ノ兵器ト彈藥トヲ遺棄シ東方ニ潰走ス廣東省境ヲ扼守セル福建軍モ友軍及背後ノ情況前ノ如キヲ以テ遂ニ



分水關、老虎汛ノ線ヲ撤シ紹安ニ集結シ就中  
浙軍ハ九月五六日ノ頃夜暗ニ乘シ民船ニ乘シ  
テ廈門ニ渡航セリ南軍ハ敵ノ退走ヲ追尾シ  
一面彈藥ノ補充ヲ計リ九月十三日攻撃ヲ再  
興シ紹安ヲ奪取シ次ヲ北軍ヲ銅山ニ壓迫シ  
更ニ進テ漳州ヲ陥レ近ク廈門ノ對岸ニ於テ相  
對峙スルニ至レリ

#### 四、結 言

北軍ハ爲最好望ヲ繫持セシ福建方面カ如斯慘  
憺タル失敗ヲ招キシハ七月三十日ニ於ケル臧致平  
及唐國謨ノ所部カ陳炯明軍ノ恢復攻撃ニ  
耐ヘス潰走スルニ至リニ起因スル所ナリト雖モ

五

其主因ハ將ニ中堅タル浙軍陳肇英所部ノ投南  
ニヨリ全ク戰鬥力ヲ失墜シ退却ノ餘儀ナキニ  
至リニ基クモノトス抑モ童葆煊ノ指揮スル浙  
江第一師ソ步兵三團(第一團長陳肇英、第二團長  
李金義、第四團長伍文淵)砲兵一團ヲ基幹トスル  
モノニシテ陳肇英投南後伍文淵附南ノ意アリ  
李金義ノ所部亦三々伍々南軍ニ投シト眞ニ童  
ノ信賴シテ使用シ得ルモノ僅カニ實力ニ營ニ足ラズ  
故ニ昨令童自身モ既ニ投南ノ意志ナキニ非スト  
雖滇軍方面ニ投セハ其所部悉ク呂公望(目下  
軍政令ニヨリ浙軍總司令タリ)ノ指揮ニ入り自  
己ニ兵ナキニ至ルノ恐レアリ故ニ近來浙江民黨

ノ中介ニヨリ孫派ニ屬スル陳軍ニ投セント運動  
シツアルカ如シ孫派ハ之ヲ以テ何等カノ名義  
ヲ附シ浙江ニ歸還セシメ浙江ニ事ヲ舉ケント企  
圖シアルモ福建ノ情況ハ遂ニ之ヲ許ササルヘク  
結局童ハ其所部ヲ率ヒ陳炯明ト握手スルニ至ル  
ヘキカ

之ヲ要スルニ南北ノ抗爭ハ戰鬥能力ノ比較必シ  
モ勝敗ヲトスルニ足ラス即チ戰鬥ニ從事セル部  
將各個ノ性格ハ元ヨリ政治的郷黨的關係ニ依  
リ意外ノ變化ヲ來スモノトス

参謀次長  
 海軍々令部次長  
 関東都督府陸軍参謀長  
 坂西少将  
 青島守備軍参謀長  
 上海駐在武官  
 海軍参謀長  
 外事課  
 福州領事  
 發送先

陸軍次官  
 外務次官  
 北京公使館附武官  
 天津駐屯軍司令官  
 中支那派遣隊司令官  
 臺灣總督府民政長官  
 警視總長  
 廣東總領事



新13316授

大正七年七月拾五日接受

駐政務 第一課

電報

七月十一日

七月十日午後四時五分

總長宛

廣東電 二四號

廣東電 第五號

未タ攻勢ヲ轉

ノ如シ是レ過般童

一南方將來必ス

海軍ハ極カ援助

支給スルエト

リタル處置ニ過

明ハ陸榮廷ト

ニ歸還ノ途ニ在

關シ其後調査ニタルニ意保唯軍人

ノ如シ是レ過般童ヨリ軍政府ニ對シ投南條件トシテ

一南方將來必ス浙江攻敵ヲ實施スルコトヲ浙江攻敵ニ方リテハ

海軍ハ極カ援助ヲナスコト

支給スルエトヲ以テシタルニ軍政府ハ之ヲ承諾セサリレ為メ執

リタル處置ニ過キサルモノノ如シト又軍例ノ言ニ依レハ譚浩

陸

明ハ陸榮廷ト和議及軍事上ノ交渉ヲナス為南軍

ニ歸還ノ途ニ在リト

原簿付

授受19010號

大正七年十月十九日接受

陸軍部 第一課

十一月十七日

電報

十一月十六日午後一時五分發

參謀次長宛

在 臺灣總督府陸軍參謀長

第八番號

張群ヨリノ來信ニヨレバ南方ノ真意ハ既ニ和平ヲ  
顯ニ挑戰ノ意ナシ查英クハ助力ヲ乞フト

陸軍

5-1415

2019

號 10064 受 檢

大正七年三月廿日 接受

駐政務局

第一課

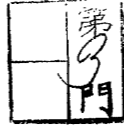
臺參謀第四六號

大正七年十一月七日 臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第四五號

福州事情

- 一、李督軍ノ威望失墜
- 二、王麒旅團ノ兵器沒狀
- 三、李督軍ノ薩鎮冰及黃培松ニ對スル態度
- 四、李督軍ノ時局ニ對スル決心
- 五、將來ノ福建統治ニ對スル世評



福州事情

一、李督軍ノ威望失墜

九月下旬李督軍カ廈門ヨリ歸福シテ以來其威望頓ニ減少シ之カ維持ニ腐心シツツアル事ハ既報ノ如クナルカ其ノ懷柔効ナク人心日日離反シ其ノ信用日日減少シ一般人民ハ軍費ノ支出サエ之ヲ拒マントスルニ至レリ之レ治安ヲ維持シ商業ノ安全ヲ圖リ得ルナラハ其ノ要求ニ應スヘキモ李督軍ノ現況ニテハ如何ニ費用ヲ提供スルモ治安恢復ノ見込ナシ依テ寧口南軍ヲ迎エテ之ニ據リ治安ヲ維持シ商業ヲ安全ニ營マント希望スル者アルニ至レル結果ナリ又一部ニ於テハ李督軍ニ提供スル費用ヲ薩

鎮冰ニ與エナハ有利ニ使用セラルヘシ等ト論スル者アリ又李督軍ノ命令ハ直接幕下軍隊ニモ意ノ如ク行ハレサルカ如シ現ニ姚建屏ヲシテ延平ニ赴キ戰ヲ督セシメントセシモ姚師長ハ出發セサリキ其ノ理由トスル所ハ十七日出發ニ際シ現銀九萬元ヲ受領スヘキ契約ナリシニモ拘ラス十六日ニ至リ五萬元ヨリ支給ヲ受クル能ハサリシ爲ナリト謂フモ其ノ半面ニ於テハ延平ニ赴クモ成效ノ見込ナキヲ以テ自己ノ將來ヲ顧慮セルカ如シ然ルニ李督軍ハ之レヲ強ユル能ハサリシカ如キハ其ノ實證トス殊ニ福建人ヨリ成ル混成第十一旅ニ對スル彼ノ不穩當ナル處置(次項參照)ハ一般福州人

ノ惡感ヲ招キ怨嗟ノ聲益々甚シキヲ加ヘ李督軍ノ威望全ク地ニ落ツルニ至レリト謂フモ敢テ過言ニ非カルヘシ

要之李督軍ノ實權擧ラス益々人民ノ怨ヲ求メ南軍、土匪並ニ人民トニ包圍セラレアル状態ニシテ已ニ城内ニハ南風滿々タル感アリ將來何等カノ狀況變化アラハ督軍ハ危險ノ状態トナルモノト判斷セラル

二、混成第十一旅ノ兵器沒收

混成第十一旅ハ旅長王麒ヲ始メトシ幕下ハ福建出身ノ者ヲ以テ編成セラレアルヲ以テ李督軍ハ此軍隊ノ存立ヲ好マス西南ノ戰爭ニ從

フニ當テモ後方ニ殘置シ主トシテ治安ノ維持ニ當ラシメ現ニ該旅ハ福建省内各所ニ分屯シ省城ニアルモノ僅カニ三營(實數極メテ少ナシ約一營位ナリ)ノミニシテ常ニ王麒ノ勢力ヲ減少セシムル事ヲ計レリ而シテ此各所ニ分屯セル部隊ハ土匪鎮壓ノ成績不良ナルノミナラス却テ北兵ノ横暴ニ對スル不満ヨリ土匪ト化シ南軍ニ通スルニ至レルモノアリシヲ以テ李督軍ハ益々第十一旅ニ對スル惡感ヲ増進セリ恰モ王旅長カ其ノ母ノ喪ニ遭ヒ休務セルヲ機トシ惡疎ナル手段ヲ以テ第十一旅ヲ殆ニト解散ノ状態ニ至ラシメタリ即チ十月十六日午後四時第十一旅長代理沈珂ヲシテ





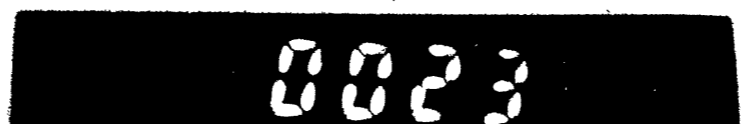
各營ヲ集メ給料ヲ支給セシメ各兵ノ城内ニ受領ノ爲メ集合シアル間ニ督軍署衛隊團長王獻臣ヲシテ密ニ北兵百餘人ヲ率ヒ兵營ニ至リ銃砲一切ヲ取り上ケシメタルモノナリ其小銃ハ約五百挺ニシテ残ス所當時衛兵ノ所持セシ十數挺ノミニシテ彈藥ハ嚴命ニテ十八日上納セシメタリ之ヲ以テ第十旅ハ全ク武器ナク實力ナキニ至レリ該處置ニ對スル李督軍ノ理由トスル所ハ南方戰線ニ小銃不足ナルヲ以テ一時之ニ充當スルニアリト稱スルモ其手段ヨリ觀察セハ眞意ノ然ラサルヲ判斷スルヲ得ヘシ

三

第十旅長代理沈珂ハ督軍ニ解散ヲ請ヒタルモ  
允許セス營長等モ面謁ヲ請ヒタルモ王獻臣ヲシテ代謁セシメ自ラ面接セス斯ノ如ク形式上解散ヲ命セサルハ解散ニ當テハ相當ノ給料ヲ與ヘサルヘカラス然ルニ目下其費用ナキヲ以テナリト以上ノ處置ハ福建人ヲシテ李督軍ニ對シ益々惡感ヲ有セシムルニ至リシモノニシテ南軍ノ速カニ來リ李督軍ヲ驅逐スルヲ希望スルニ至ル亦故ナキニアラサルナリ

三、李督軍ノ薩鎮冰及黃培松ニ對スル態度

李督軍ハ薩鎮冰ニ對シテハ其人格ノ清廉有徳ナルニ敬服シアリテ表面何等ノ惡感ヲ有セサルモ曩ニ清郷事宜ノ爲メ薩鎮冰ノ來閩スヘキ



風評アリタル時薩ノ人格上決シテ起タサルヘシ  
ト信シタルニ其ノ現實セラルルヤ豫想ニ反シ  
タルニ一驚セリト而シテ曰ク「薩ノ來閩ハ彼ノ  
意志ニ非スシテ黃培松カ會辦タラントスル野心  
ヲ實行センカ爲メ薩ヲシテ無理ニ起タシメタル  
ナルヘシ」ト 以上ノ如ク薩個人ニ對シテハ何等ノ  
惡感ヲ有セサルモ黃培松ニ對シテハ心中快トセ  
サルモノアルカ如シ

薩鎮冰ノ權限ニ於テモ何等ノ規定ナク如何ナル  
事業ヲナスヤ不明ナルモ督軍又省長トシテ自己ノ  
權限ニ屬スル事ハ他人ノ干涉ヲ許サス李ノ欲ス  
ル所ニ從ヒ處辨スル考ヘナリト

四

又李督軍ハ清鄉事宜督辦ヲ中央ヨリ命令セシメ  
ハ已レノ爲メニ援助ノ目的ヲ以テセシナルヘク後  
方ヲ安全ナラシメ西南時局ニ專念從事セシムル  
考ヘナルヘシト苦笑シツツ語レリト

薩鎮冰到着時ニ於ケル兩者ノ挨拶ニヨルモ薩ハ  
「將來任務達成ノ爲メ御援助ヲ乞フ」ト述ヘタ  
ルニ對シ李ハ「援助ヲ乞フハ自分ナリ本務トシテ  
當然ナスヘキ事業ナルヲ以テ其ノ事業ニ對シ援助  
ヲ乞フナリ」ト答ヘ聞クモノ奇異ノ感ヲナサシメタリ

果セル哉最近ニ至リ李督軍ハ中央政府ニ向ヒ黃培  
松ノ罷免ヲ電請シ中央部ハ薩ニ對シ李督軍  
ト協同事ニ當ルヘク電訓セラルル等漸次兩者ノ

關係ハ具體的ニ實現シツツアリ

四、李督軍ノ時局ニ對スル決心

李督軍ノ信用ハ近時全ク地ニ落ケ延平、興化ノ  
狀況非ナルニ伴ヒ李督軍ノ位置亦日ニ危險ニ  
傾キツツアリ此間ニ處シテ彼ハ最後ノ一兵ニ至ル迄  
自己ノ位置ヲ保持セントノ堅キ決心ヲ有シ延平ニ  
對シテハ特ニ姚師長ニ訓諭シテ步兵三營及砲兵  
中隊ヲ率ヒテ出發セシメ興化福清方面ニ對シ  
テモ亦増兵シ尚ホ天津方面ヨリ約六千ノ兵ヲ  
輸送シ益々自己ノ位置ヲ安固ナラシメント計畫  
中ニシテ既ニ大總統ヨリ停戰命令ヲ受ケタルニ  
モ拘ラス之ヲ決行セント企圖シ目下運送船ヲ得

五

ニト日本人側ニ依頼シツツアリ

李厚基ハ福建督軍ニ任セラレテ以來何等惡政ヲ施  
シタル事ナク中央政府ノ命之レ從フノ人物ナルヲ  
以テ中央政府ニ於テハ同督軍ニ對シ厚キ同情アル  
カ如キモ今日ニ於ケル福建人心ノ反抗ハ最早挽回  
シ得ヘカラサル情態ニ在リ然レトモ目下福建人ヲ  
代表スヘキ薩鎮冰ハ實力ヲ有セサルヲ以テ直ニ  
驅逐スルヲ得サルヘク南軍ノ力ヲ利用スルヨリ外  
方法ナカルヘシト言フモノアリ

因ニ張參謀長ノ語ル所ニヨレハ李督軍ノ位置ハ  
頗ル危険トナルハ周知ノ事實ナルモ督軍ハ堅キ決心ヲ  
以テ最後迄奮闘スルノ覺悟ヲ有スルヲ以テ予モ

亦之卜行動ヲ共ニスヘシト

五、將來ノ福建ノ統治ニ對スル世評

李督軍失脚後ニ於ケル福建ノ統治ニ對スル世評ハ薩鎮冰ヲ督軍ニ黃培松ヲ省長トシ方聲濤、許崇智ヲ師長タラシムルナルヘシト唱道セルモ南軍ニ於テハ方聲濤ヲシテ督軍タラシムル意圖ヲ有スルモノノ如ク已ニ方ハ其ノ内意ヲ受ケ汕頭ニ至リ同地ヨリ海路連江附近ニ上陸スルニ到ルヘシト謂フモノアリ

之ヲ要スルニ福建ニ於ケル李、對薩、李對南軍、薩對南軍ノ關係ハ愈々複雑トナルヘク將來ノ重大問題ナリ

參謀次長 發送  
海軍司令部次長  
關都督府陸軍參謀長  
坂西少將  
青島守備軍參謀長  
上海駐在武官  
臺灣總督府海軍參謀長  
廣東總領事

先陸軍次官  
外務部次官  
北京公使館附武官  
天津支那駐屯軍司令官  
中支那派遣隊司令官  
臺灣總督府民政長官  
臺灣總督府警視廳長  
福州總領事



授受19191號

大正七年十月廿五日發受

臺參謀第五四號

大正七年十月十四日

臺灣總督府陸軍參謀部

3 課

課



手形の返

南支情報第五三號

十月上旬  
ニ於ケル 福建ノ情況

岡本 氏 謹啓

十月上旬ニ於ケル福建ノ情況

目次

第一、福州ノ情況

一、李督軍對スル一部ノ同情

二、李督軍ノ南北和平觀

三、鄭桓ノ南北和平觀

四、李督軍北兵招致難

五、姚建屏ノ態度

六、福州近郊ノ情況

七、福建政府ノ台灣銀行福州支行對スル債務

八、時事雜件

第二、廈門ノ情況

一、北軍ハ懸賞ヲ附シテ南軍ヲ破ル

二、徐世昌就任日ニ當レル國慶日寂寥タリ

三、陳李兩軍ノ停戰

四、廈門大鳴ニ上陸セル龍濟光軍

五、史廷颺ノ得意ト唐國漢ノ失意

六、南北軍冬期被服ヲ準備ス

七、林謙ノ談片

第一、福州ノ情況

十月下旬以來福建ニ於ケル南北西軍ハ相對峙ノ姿ニ  
テ變化ナク福州ノ人心モ稍々靜穩ニ歸シツツアリシカ  
同月中旬ニ及ヒ南軍ノ使啖ニ係ル大匪ノ横行盛トナ  
リ昼間ハ良民ヲ裝ヒ夜間ハ土匪トナリテ北軍ノ銃器彈  
藥ヲ竊取シ近郊ヲ掠奪シテ南軍ノ給養ニ資スルノ  
情態ニシテ北軍ヲ悩スト一方ナラサリシカ遂ニ興化ヲ陷  
シ福清ヲ占領シ其勢猖獗ヲ極ムルニ至レルノミナラス  
省城ニ於テハ薩鎮冰到着以來一般ノ同情ハ薩  
ニ厚ク李ニ薄キヲ示シ李督軍ヲシテ甚カラス不安ヲ  
感セシムルニ至レリ之レ即チ南支情報第甲五號ニ於  
テ詳報セル如ク福建人ヨリ成レル王麒麟旅團ノ兵器

ヲ沒收スルニ至レル主因ナリ爾來人心ハ益々李厚基  
ニ及對ノ氣勢ヲ加フルト共ニ又勳搖ノ兆ヲ呈シ城内ヨ  
リ蒼前山ニ避難スルモノ錢莊ノ預金ヲ台湾銀行ニ  
預換スルモノ等其數ヲ増加シ目下省議會及ヒ商  
務總會モ益々薩鎮冰ニ同情シテ李厚基ヲ疎  
スル傾向アルヲ以テ李ノ前途ニ對シ悲觀ノ聲高キト  
共ニ其失脚ニ際シテハ掠奪行為アルヘシト豫想シ人  
心平靜ナラス

商務總會ハ福州領事團ヲ經テ李督軍ニ對シ省  
城内ニテハ戰鬥ヲ行ハサル事ニセラレタキ旨申込ニ或ハ李  
督軍ニテ省城ヲ立退ク場合ニハ一月ノ俸給ヲ支拂ス  
シト申込ミタリト傳ヘ又薩鎮冰ハ我領事ニ向ヒ李督

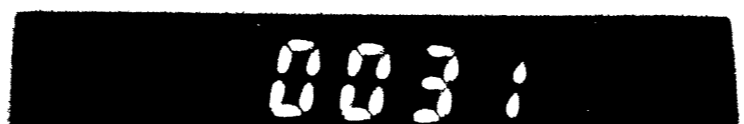


軍ノ麾下ニ屬スヘキ王氷泉カ北兵六千ヲ率ヒ上海方面  
ヨリ來閩ノ苦ニテ大坂商船會社ニ輸送方交渉スヘシトノ  
噂アルヲ以テ之ヲ拒絶スル様盡力アリタシ然ルトキ自然  
支那汽船ヲ輸送セラルヘキ付其ノ途中ニ擊沈ノ手  
筈ヲ定メタシト述ヘ一面ニ於テハ南軍ニ對シ福州ノ西北  
水口ヨリ以南ニハ當分未攻セサル様セラレタキ旨ヲ申込ミ  
以テ何處迄モ省城ノ安寧ヲ維持セント努力シツツアリ  
之ヲ要スルニ福州ハ屢々報告セル如ク李督軍、薩鎮冰  
及南軍ノ勢力争ヒノ焦臭タラントスル形勢アリテ目下  
尚人心常ナラサルモアリ尚在ニ見出大尉ノ報告ニ係ルニ  
三福州事情ヲ記シテ以テ参考ニ資スル所アラントス  
一、李督軍ニ對スル一部ノ同情

李督軍ノ信用ハ前報セル如ク各方面ニ於テ悲觀的ノ狀  
態ニシテ薩ノ幕下ノ師タル農林學校長何續ノ言ニ  
依レハ薩方面ヨリ督軍ニ對シ退去ヲ迫ル計畫ハ依  
然進行シツツアリト明言セリ此如ク極端ニ排斥ハ其  
反動トシテ一部ノ人士ニ李督軍ノ窮境ニ同情ヲ表スル  
者アルニ至リ福州ニ於テニ黨派ヲ生ズニ至ルモ大勢ニ於  
テ李督軍ノ聲望ハ最早挽回困難ナカシ

二、李督軍ノ南北和平觀

先般省議會會長ヨリ李督軍、薩鎮冰、黃培松ノ三名ニ  
對シ同文ノ平和希望書ヲ提出セシニ對シ李督軍ハ之ニ  
回答ヲ與ヘテ即チ左ノ如シ  
ノ省議會會長、李督軍、薩督辦、黃會辦ニ致スノ



書

敬啓南北構釁、戰事蔓延ニテヨリ以未聞省禍ヲ受クル甚ク烈シ前日蘇省（江蘇省）議會通電ニテ息争ヲ籲請セリ本會同人極メテ同意ヲ表ス頃日大總統、國務院及廣州軍政府ニ電報ニテ息歇ヲ明示シ和平ヲ回復セシメトテ請ヘリ茲ニ原電ヲ送呈ス希クハ察閱セラレニトテ

電報寫

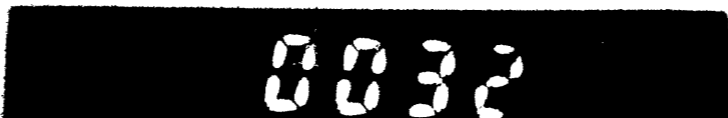
北京大總統、國務院、廣州軍政府均鑒、國內構釁已三年ヲ経、同室相攻シ人民困苦ス閩省海隅瘠苦、今回戰禍ノ慘ヲ受クル四川湖南ト異ルナシ此ノ如

三

クニシテ長ク相持スル時ハ國家ノ前途ヲ如何セン今ヤ全國ノ民意咸ナ息争ヲ望ム且ツ歐戰モ亦將ニ終ラントス我猶内訌ニテ已マサレハ外國ノ干涉必ス至ラン存亡ノ機間髪ヲ容レス前日大總統ノ電令ヲ見ルニ亦和平ヲカ主セラル急キ希クハ雙方嫌ヲ釋キ停戰ヲ明示シ善後ヲ協商シ以テ危亡ヲ挽回セラレニトテ迫切籲陳ノ至リニ勝ヘス

二、李督軍ノ省議會ニ復スルノ書

敬復、頃日貴書並ニ電報寫一通ヲ接受ス謹テ告ク國事ヲ關懷シ和平ヲ維持スルニト欽佩ニ勝ヘス此戰事蔓延人民交困スル時ニ當テ之ヲ長ク相持スルトキハ其レ何ヲ以テカ堪ヘシ大局ノ為メニ計ルニ自ラ宜シク和平解決シ以テ挽救ヲ圖ルニ由テ特ニ答復ス



三、鄭桓ノ南北和平觀

福建全省清鄉辦事處參謀兼督軍署諮議鄭桓ノ談ヲ以テ南北和議ハ刻下ニ於ケル急務ニテ誠ニ望ム所ナルモ種々甚々困難ナル内情(遺及セシモ言明セズ)アリテ成否疑問ナルカ如シ幸ニテ成就スルモ早クモ一ニケ月ヲ要スヘシ尚現下ノ大勢ハ應和議ヲ成立セシムヘキモ真ノ平和ハ容易ニ得ラレサルヘシト

四、李督軍北兵招致難

福建ニ招致スヘキ王永泉ノ指揮スル一旅ハ船腹ナキ為メ未タ到着スルニ至ラス海軍側ニ交渉セシモ却テ妨害ヲ受ケ已ムナク日本船ヲ依頼セトセシモ交渉不調ニ終リタル為メ萬事窮セルカ如ク十月六日王旅長ノ密電アリテ「浦口ニ駐紮スル

ノト已ニ二千餘日給養モ困難シツツアリ若シ輸送方法ナケレハ寧口原地ニ歸還スシト依テ李督軍ハ陸路招致ノ方法ヲ講スヘシト

五、姚建屏ノ態度

姚建屏ハ李督軍ノ股肱ノ臣ナリシモ李督軍ハ近時王獻臣ヲ重用シ稍姚ヲ疎スルノ風アリ而シテ一方南軍方面ヨリ姚ニ對シ欸ヲ通セシトテ勸誘セシ為メ稍心ヲ動カシ若シ李督軍ノ位置愈々危険ナルニ至ラハ南軍ニ通スル意圖アルハ事實ナリト某軍官ハ語レリ支那人ノ利ニ就テハ其國民性リ或ハ事實トシテ現ハルルニ至ルヤモ計リ難シ李督軍ノ位置ハ内部ニ於テ已ニ斯クノ如ク分烈ノ状態ニアリ愈々危険ナルヲ知ルニ足ル

六 福州近郊の情況

イ 延平方面

延平方面ニ爾後益々防備ヲ嚴ニシ又約ニ連強ノ兵ヲ逐次(船校ヲ小艦ヲ)増加セルカ如キモ持久防禦的ナルヲ以テ戰局ニ大ナル發展ヲ見ス

ロ 興化方面

興化方面ニ於テモ爾後兩軍相對待シ時ニ匪賊的小鬪ヲ見ルモ何等新局面ヲ開カス

ハ 福清方面

福清ニ於ケル南軍ト稱スル土匪ハ倪克龍ノ部下百名鐘保安旗下ノ匪首鐘兼孟、鐘阿元、進喜、双喜等ノ部下約六百名合計千名アリシモ兵器不完全

五

ノ為メ北軍ノ攻襲ニ對シ同地ヲ維持スルヲ得ヌ四散シ遂ニ十月十九日北軍ハ完全ニ同地ヲ台領スルヲ得タリ然レトモ土匪ハ援軍ヲ得ルノ後更ニ同地ヲ攻襲スト謀言シアルモ北軍ノ一部ハ已ニ福州ニ歸還セリ

ニ 長樂方面

長樂縣ニ於ケル南軍ト稱スル土匪ハ益々猖獗ニシテ南軍ノ一部モ亦進入シ危險トナリ縣知事ハ逃レテ二十八日晚福州ニ到着セリ

ヒ 永泰縣方面

永泰縣ニ駐紮セル兵一連ハ土匪並ニ南軍ノ勸誘ニ依リ營長ノ制止セルニ拘ラス終ニ南軍ニ内應セリ爲メ該縣ハ十月五日南軍ト兵トニ台領セララルルニ至

該管長ハ行方不明トナリト

七、福建政府ノ台湾銀行福州支行ニ對ス債務  
福建ニ於ケル現今ノ財政ハ窮乏ニ窮乏ヲ重テ學校教育  
費ヲ始メトシ諸種經費ノ支拂停止手當ノ不給夥多シ  
キモアリ一例セハ公立學校ハ數ヶ月間其經費ヲ受領セズ  
在省各隊ハ給料トシテ大洋一元ヲ受クルノミニシテ全額ノ  
支給ヲ受ケルヲ三月ニ及ヘリ目下財政ノ内容ヲ詳細  
ニ知ルヲ得サルモ我台湾銀行福州支行ニ對シテモ福建  
銀行ヲ通シテ計七件約七十万円ノ負債アリテ何レモ本年  
末前後ニ決済スヘキ苦ナルモ支拂延期ヲ申込ミアリ之  
レカ決済ニ主トシテ茶稅ヲ充當シアリシモ茶稅ハ已ニ他  
方面ニ流行シアリテ極メテ不安定トナリシヲ以テ銀行側

六

ニ於テ之レカ保定ノ為ノ擔保トシテ諸種ノ利權ヲ提供  
スク交渉中ナリト然レトモ目下秘密ニ附シテ詳細ニ知ル  
ヲ得サルモ馬尾造船所、通信權（福州川石山間）水道  
權一部ノ鐵道權等ヲ要求シアルカ如シ  
斯ノ如キ時機ニ於テ各種利權ヲ我國ノ手ニ收ムルハ極メ  
テ緊要ノ事ニシテ特ニ通信權ヲ獲得セントスル考案亦  
就テハ最モ適切ナルモト思考ス

督軍ハ財政困難ニシテ充分ナル費用ヲ求ムル能ハサルヲ  
以テ窮余軍票ヲ發行セント提案セシモ民間ノ反對ヲ  
受ケ遂ニ中止ニ至レリ

尚財政困難ノ一端トシテ擧グレハ李督軍ハ十月三十日  
財政廳長ヲ召シ十月分文武諸官ノ月給十餘萬元ノ

籌備ニ付特ニ盡カセシトテ請ヘリ費氏ハ目下各縣土匪ニ台領セラレ稅務集ラス海關厘金等モ亦減少シ財政非常ニ困難ナルモ十月十日迄二十萬元ヲ調達スヘシ然レトモ軍費ハ督軍ヨリ中央ニ電請セラレタシト答ヘタリト茲ニ於テ督軍ハ借款ヲ起ス希望アルカ如シ要之各方面ニ於テ信用ナク財政モ亦困窮シ頗ル悲觀ノ状態ナリ

### 八、時事雜件

一、李督軍ト長門要塞並ニ海軍

十月下旬李督軍ハ長門要塞ニ於ケル小銃及火砲ヲ自巳ノ手中ニ收メントセシニ海軍側ノ故障ニ依リ要塞司令官ハ之レヲ拒絕シ火砲ノ閉鎖機ハ海軍側ニテ取リ

七

脱シ督軍ニ於テ使用シ得サルニ至ラシタリ

二、督軍署ノ兵器收用

十月五日陸軍第一師司令部アリシ開花砲四門、洪山橋兵工廠ヨリ青銅砲一門ヲ督軍署ニ收用セリ警備上威嚴ヲ保ツカ為ナラント察セラル

### 第三、廈門ノ情況

廈門方面ハ南北西軍ノ衝突臭タルヲ以テ常ニ多少ノ問題アリ十月以來最近ニ至ル迄ノ主要ナル事件ヲ列記スレハ概ホ左ノ如シ

一、北軍ハ懸賞ヲ附テ南軍ヲ破ル

北軍團長辛桂芳(秀山ト號ス)ハ十月月上旬灌口方面ヨリ攻撃ニ轉ス際敢死隊百二十名ヲ募集シ酒菜ヲ給シ

テ優遇シ敢テ夜襲シテ成功セハ同隊ニ對シ一萬二千元ヲ賞與シ若シ戦死セハ家族ニ對シ一千元ヲ支給スルヲトシ分捕品ハ相當ノ評價ノ下ニ更ニ代價ヲ支拂フヘキヲ約シ時成功シ該隊ニ依リ捕獲セシ小銃二百十挺ニ及ヒシモ彈藥殆トナキノ情態ナリ之ヲ以テ南軍ニハ彈藥ノ欠乏セルヲ知ルヘシト辛團長ハ語レリト

### 二、徐世昌就任日ニ當レル國慶日寂寥タリ

中華民國建設以來廈門ニ於ケル支那國慶日タル十月十日ハ五色旗ヲ戸々掲ケ祝意ヲ表スルノ情アリシニ拘ラス本年度ニ於ケル十月十日ハ港内ニ淀泊中ノ支那軍艦應瑞、通濟、永績、建康及英艦カドマス、プーハム並ニ我秋津ノ七雙カ滿艦飾セルニ拘ラス陸上ニ於テハ支那官廳ノ外市民ノ家屋ニハ一旗ヲ認メサル有様ニシテ從來ニ其ノ例ナキ寂寞ヲ極メタリ之レ南軍ヲ憚リテ國旗ヲ掲ケサリシナリト言フモ不法國會選出大總統ノ徐世昌ニ對スル不承認ヲロニスルヲ多カリシモ亦一因ナリト

### 三、陳李兩軍停戰

九月下旬以來南軍ハ漳州ニ兵カラ集結シ北軍又廈門ノ對岸灌口石尾附近ニ兵カラ移シ相對峙シアル間ニ於テ陳炯明ハ李督軍ニ面識アル元廣安知事吳禮和ナルモノヲ廈門ニ特派シ童葆暄及臧致平ニ停戰ヲ申込ニ更ニ李督軍ニ此旨ヲ移牒シ督軍ハ陳炯明ニ面識アル汪靜沈ヲ漳州ニ派シ茲ニ合意ノ上停戰

意見ヲ互ニ其ノ上司ニ打電スルトナリ福建南部ニ於ケル戦線ハ十月八日より停戦セリ

然ルニ今日ニ至ル迄同安灌口及角尾方面ニ屢々砲聲ヲ耳シ人ヲシテ不安ノ念ヲ懷カシメタリ之レ南軍カ停戦中土匪ヲ使啖シテ北軍戦線ニ近接セシメ或ハ銃器彈藥ヲ奪ヒ或ハ彈丸ヲ徒ラニ消費セシメントシタル結果北軍ノ發砲セシ砲聲ニシテ南北交戦ノ火砲ニ在ラサルナリ

#### 四、厦門大嶋ニ上陸セル龍濟光軍

十月十日無人島タル厦門大嶋ニ上陸セル龍軍、其後童葆喧、臧致平ヨリ請求ニ依リ龍濟光ハ左ノ如ク返電シ来レリ「十月二十六日天津ヲ備船セシ付遠カラス厦門

九

ニ廻航之ヲ搭載シテ上海ニ送ルヘシト之ニ依リ厦門市民ハ近キ将来ニ於テ希望ヲ達セラルモノト信シツアリ

#### 五、史廷颺ノ得意ト唐國謨ノ失意

李厚基從弟タル厦門警察廳長史廷颺ハ去ル九月十六日嶼仔尾ニ未攻セシ南軍ヲ浮宮迄追撃セシ功ニ依リ閩浙軍援粵右翼兼厦門混成第十旅長ニ拔擢セラレ十月二十九日史ノ部下ヲ嶼仔尾ニ輸送シ其ノ聲望侮レハカラスモノアリ之ニ及シ唐國謨ハ益々失意ニ陥リ近ク厦門鎮守使及右翼後司令ヲ解職セラレ郷里安徽省ニ歸ルヘシトノ消息アリ

#### 六、南北軍冬期被服ヲ準備ス

十月二十日厦門入港ノドイツ船「會社」汽船海壇號



三北軍冬期被服(鼠色、綿)及帽子約三千到着  
又同地邦商中和洋行ハ今回南軍總司令部ヨリ衛生  
材料及火藥ノ外冬服並外套三万着ノ注文ヲ受ケタルモ  
要求期日迄ニ完成ノ見込ナキ為之ヲ拒絶セリト

七、林謙ノ談

南軍投シテ漳州ニ来レル邦人林謙ハ本名井上謙一ニシ  
テ第一次革命ノ當時ヨリ孫文ニ隨從セシ廿四五歳ノ  
青年ナリ南軍ノ客分トシテ戰事ニ參與シツツアルモノ  
ナリト

井上ノ語ル處ニ依テ福建省ニ侵入セル南軍ハ兵卒ノ  
凡テカ武器彈藥ヲ有セシミアラス凡テ戰利品ヲ利用  
シテ今日ニ至リシモノナリ

一〇

汕頭古領ノ當初武器彈藥ヲ滿載セル北軍船ニ十  
餘隻中ノ六隻ヲ捕獲セシヲ手始メトシ敵及地方ノ押  
収兵器彈藥ヲ以テ漳州ヲ台領セリ江東橋ニ退却  
セルモ之レ彈藥ノ欠乏セシ為ナリ最近ニ於テハ藥莖ヲ  
拾集シ火藥ヲ製造シ敵ノ發射セル彈丸ヲ集メ一  
面ニ於テハ各地ニ布達シテ銃器ヲ有スルモノハ直ニ南兵  
タルノ資格ヲ與ヘ又漳州ニ於テハ鎮守使公署内ニ  
五六十名ノ職工ヲテ日夜彈藥ノ製造ニ從事セシメ  
ツツアルヲ以テ需用ニ應スルニ至リト

福州領事  
臺灣總督府民政課  
臺灣總督府海軍參謀長  
上海駐在武官  
青島守備軍參謀長  
坂西少將  
關東都督府陸軍參謀長  
海軍司令部次長  
參謀次長

發送先

廣東總領事  
臺灣總督府警視總長  
臺灣總督府民政長官  
中支那派遣隊司令官  
支那駐屯軍司令官  
北京公使館附武官  
外務部次官  
陸軍部次官

要目付

號後19274編

大正七年十一月廿六日接

對政務

第3號

臺參謀第五七號

大正七年十一月十五日

臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第五四號

廈門事情

一、閩南撫恤會ノ創立

二、南軍ノ間諜江文祿逮捕事件

同

一、閩南撫恤會ノ創立

一、發起人會

在厦門南方派日支人相謀リ閩南撫恤會ノ名義ノ下ニ傷病兵ヲ救恤スヘキ會ヲ組織セント企圖シ大正七年十月四日發起人會ヲ開催セシニ出席スルモノ四十有餘名ニ達シ伊藤政重臨時主席ニ推薦セラレ創立委員トシテ左記十八名當選セリ

- |      |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|
| 伊藤政重 | 翁俊明 | 陳長福 | 孫印月 |
| 許真癡  | 許春草 | 雷一鳴 | 陳敬賢 |
| 陳學習  | 黃廷元 | 張壽齡 | 辛桂源 |
| 蘇眇公  | 黃琬  | 王鼎銘 | 許鴻國 |
| 李共和  | 薛棠谷 |     |     |

二、本會ニ對スル一般ノ觀察

翁俊明、陳長福、雷一鳴等ハ臺灣籍民ニシテ伊藤ノ手先キニシテ其ノ他辯護士、醫士、英語教師、日本語通譯等南方派ヲ網羅セル爲メ本會ハ一種ノ南方派機關ニアラスヤト觀察サレツツアリ

三、會則

會則トシテ別紙ノ如キ章程草案ヲ發布セリ

閩南撫恤會章程草稿

第一章

第一條 本會定名閩南撫恤會

第二條 本會鑒於中國南北戰爭之慘劇以撫恤死傷兵士及死傷難民為宗旨

第三條 本會設總辦事處於廈門

第四條 本會至時局平定或無存立之必要時得由議事會議決解散之

第五條 本會之維持經費以會員及熱心家之捐款充之

第二章 會員

第六條 不論男婦老幼國籍如何凡贊成本會宗旨者皆得捐款作為本會會員

第七條 本會會員通常會員特別會員名譽會員及特別名譽會員四種凡向本會捐大銀十元以內者為通常會員二十元以上者為特別會員百元以上者為名譽會員千元以上者特別名譽會員然有贊成本會宗旨不願為會員而樂捐助者應稱為贊成會員

第八條 向本會捐款除現銀而外得以現物品及勞力充之

第九條 以物品及勞力作為捐款者其價值若干由本會職員公佐之

第十條 凡捐款可直向本會會計處或本會收捐人

繳納但本會派出收捐人時必預先登報公表其人姓名並給收捐憑證

第十條 本會募捐員祇以勸捐為限收捐人須具有第十條之規定方為有效

第十一條 本會會員給以本會所定之會員證及徽章

第十二條 本會會員有選舉及被選舉為議事員之權

第十三條 名譽會員免經選舉得充為議事員

### 第三章 職員

第十四條 本會議事員除名譽會員及特別名譽會員之外由全體會員公選其人數按會員每十五人選出一人之額

三

第十五條 由議事員組織議事會議事會成立時即選出各職員如左

- (一) 會長一人 代表本會總理會務
- (一) 副會長二人 補助會長之不逮
- (一) 幹事若干人 分理本會一切事務
- (一) 監查員四人 監督一切會中事務

第十六條 議事員及會長副會長幹事監查員皆以一年為任期並得連任

第十七條 會長副會長幹事不得兼任他種職員

第十八條 會長副會長議事員及監查員皆為名譽職員

第十九條 幹事由會長簡任經監查員全意

第四章 會議

第二條 (總會) 由全體會員組成於每職員改選期由會長召集開會於總會時會長當報告會務及會計決算改選職員及提議事件然後登報公告使一般週知

第三條 (議事會) 由議事員但組成由會長召集其權限如左

(一) 修改章程

(二) 本會事業預先程序

(三) 本會收支預算

(四) 預算超過之辦法

(五) 褫革會員

(六) 選舉會長副會長幹事

第四條 監查員遇會長及幹事有不合宜等情之時得召集議事會以報告其事情而請其

議決

第五條 (議事會) 以全數議員四份一以上出席就得開會過半數出席議員之同意方得表決

第六條 遇應解決之時會長及監查員皆得召集議事會

第七條 有必要時由會長召集臨時會

第八條 會議由會長召集者會長主席由監查員召集者監查員主席

第五章 事業及職務

第九條 為貫徹本會主旨起見經營事業如左  
(一) 醫療部 (二) 埋葬部 (三) 遣外救護部

其細則由各部分定

第二九條 二十八條所規定之事業由幹事掌管其各  
分如左

(一) 總幹事一人為幹事之領袖主持幹事會事  
務及指揮各幹事

(二) 會計幹事一人 司理本會預算及決算事項

(三) 理財幹事一人 掌理本會經濟收存出入

(四) 內務幹事一人 管理本會救濟事業並內部一  
切要務

(五) 外務幹事若干人 管理募捐及連絡會員關  
於協贊會之組織事宜並其他交際事務

(六) 文牘幹事二人 司理一切信札文件

五

第三十條 幹事提議時以總幹事為主席其幹事細則  
由幹事會自定

第三十一條 為欲本會目的起見得由外務幹事並其他熱心  
家別組協贊會以匡助本會成功其組織法及詳  
細規程由外務幹事定之

### 第六章

第三十二條 依第三十四條要解散本會時特將當時在職  
員為清理員使其結算一切若有餘產儘  
捐於他項慈善事業



二、在厦門江文祿逮捕事件

江文祿ハ厦門全閩日報社主兼主筆江保生(臺灣籍民)ノ子ニシテ父江保生ノ指導ヲ受ケ南軍ノ爲ニ北軍ノ内情ヲ探知セリ時ニ嶼仔尾駐屯某營長ノ部下連長張新啓ナル者ハ在漳州陳炯明ヨリ次ノ如キ勸誘ヲ受ケタリ

「嶼仔尾ノ北軍ヲ投降セシムレハ兵卒一名ニ付二元全數四百名ニ對シ八百元ヲ提供シ成功後ハ父江保生一派ノ仲間ハ別ニ七百元ヲ報酬サレ張新啓ハ南軍團長ニ陞進セシムヘシ」ト茲ニ於テ張ハ江文祿ト結托シテ事ニ當リシカ北軍偵探長韓文治ノ偵知スル所トナリ遂ニ之カ爲メ逮捕セララルニ至レリ

然ルニ父江保生ハ臺灣公會ノ副會長タルカ故ニ同會顧問邦人岡本要八郎(旭瀛書)ハ在厦臺灣籍民全體ノ名譽信用ニ關スル重大事ト思惟シ好意的ニ公會議員秘密會議ヲ開キ江保生ノ爲メ有利ニ解決セシムヘク研究セントシ十月六日臨時會ヲ開催スヘク計ヒタルニ江保生ハ除外サレタルモノト速断誤解シ臺灣公會ノ名ヲ妄用シテ公會員ノ高等無賴漢等ヲ集メ會議ヲ傍聽セントシツツアルヲ以テ同會者側ハ茲ニ江保生ノ行爲ニ不審ヲ懷クニ至レリ而シテ同會者ハ江保生ノ件ニ就キ最初ヨリ議題ニ上クルハ秘密漏洩ノ憂アリトナシ機會ヲ見テ本問題ニ入ラントセシニ之ヲ知ラ

ナル彼等ハ不平的暴言ヲ吐キ其ノ進行ヲ妨害セリ  
而シテ本會合ハ江保生ノ問題ヲ有益ニ解決セシカ爲  
ノ研究會ナリシコトヲ司會者側ヨリ洩聞シタル江兄  
弟ハ始メテ自分等ノ粗暴無禮ナリシヲ悔悟シタル  
モ一般ノ議員等ハ江等ノ言動ニ激昂スルモノアリテ  
一時廈門ノ問題トナレリ而シテ江保生ノ子江文祿ハ  
日本領事館ヨリ釋放セラレ歸宅セシモ之ト關係  
ヲ有シタリシ連長張新啓ハ全閩新日報社内ニ  
於テ遂ニ北軍偵探ノ手ニ逮捕サレ早晚銃殺ノ刑  
ニ處セララルヘシト

七

福州領事  
臺灣總督府民政課  
臺灣總督府海軍參謀長  
上海駐在武官  
青島守備軍參謀長  
坂西少將  
閩東都督府陸軍參謀長  
海軍々令部長  
參謀次長

發送先

廣東總領事  
臺灣總督府警視總長  
臺灣總督府民政長官  
中支那派遣隊司令官  
支那駐屯軍司令官  
北京公使館附武官  
外務軍次官  
陸軍次官

5-1415

0049

か

秘 校受19643號

大正七年三月四日 接電

警政司 第三

電

電報

參謀次長宛

在

臺灣參謀長

十二月三日

五月廿一日午後六時三十分着

臺電第百八十九號

福州電薩鎮冰言

陳炯明許崇智軍糧食之困難シツタリ故ニ北

京政府ニテ方法ヲ設ケサレハ彼等ハ必ス復タ武力ヲ以テ急

ヲ拾フベシト

許崇智、黃岡ニ在リ

陸軍

大正七年三月十一日接獲

臺參謀第六三號

大正七年十二月四日

臺灣總督府陸軍參謀部

號發19950番

秘

第3門

第3門

南支情報第六〇號

一、停戰下令後ノ福州ノ狀況

二、地方ノ狀況

三、歸國留日學生救國團ノ排日運動

支那の海

3

一、停戰下令後ノ福州ノ狀況

十一月十六日停戰令下ルヤ李督軍ハ二十一日陳炯明ニ對シ撤兵ニ關シ其ノ意見ヲ徵スル爲電報ヲ發セシカ越テ二十三日陳炯明ノ弟陳覺明使節トシテ福州ニ來リ李督軍ト種々協議スル所アリタリ外間傳フル所固ヨリ信シ得サルモ陳炯明ハ福建撤兵ノ條件トシテ四十萬元ノ支出ヲ要求シ李督軍ハ之ヲ拒絕セリ近ク福建ヨリ姜祕書長使節トシテ漳州ニ至リ陳炯明ト會同シテ撤兵及土匪鎮定等ニ就キ協議スル筈ナリト斯クテ李陳兩將間ニ交通ノ道開ケ來ルルト同時ニ福州ニ於テハ上海及北

京ノ和平期成會ニ響應シテ福建和平期成會ナルモノノ成立ヲ見又福建省議會ニ於テハ閩省疲弊シ人民塗炭ニ苦ム今ヤ停戰令下リ歐戰亦熄ム速ニ和平ヲ希望スル旨ヲ決議シ二十三日附ヲ以テ徐總統及廣東軍政府ニ電報シ又李督軍ニ要請スル等和平運動顯著トナリ福州ノ人民ハ最早和平ノ成立セルカ如ク安堵シ商況漸ク振興ノ徵アリ

二、地方ノ狀況

延平附近一帶ノ南軍ノ退却ト共ニ姚師長ハ其ノ占領區域ヲ擴張シ洋口沙縣ヲ占領シ一部ヲ永安ニ向ハシメ師司令部ヲ洋口ニ移セリ莆田

附近ニ於テハ十一月二十三日尚戰鬥繼續シ南軍  
優勢ナル爲北軍ハ周永桂ノ部下ヲ應援セシメ  
又王獻臣ヲシテ其ノ所部ヲ率テ赴援セシメタリ  
其ノ他嵩口ハ南軍ニ占領セラレ屏南ハ土匪猖  
獗ナリシモ北軍ノ占領ニ歸セリ要スルニ停戰命  
令ハ未タ地方ニ徹底シ居ラス

三、歸國留日學生救國團ノ排日運動

歸國留日學生救國團ハ十一月二十七日支那各地  
新聞ニ日支軍事協約ハ日本カ支那ヲ強要訂  
セシメタルモノニシテ日本兵ハ現ニ東蒙ニ入り更ニ新  
疆ヲ窺ハントスルノ事實顯然タリ今ヤ獨塊屈服  
復タ防敵ノ要ナキヲ以テ宜シク解約ヲ宣言シ曰

本ニ對シ滿蒙駐兵ノ撤退ト青島還附ノ約言實  
行ヲ要求スヘシト掲載セシメタリ

參謀次長  
 海軍軍令部長  
 關東都督府陸軍參謀長  
 坂西少將  
 青島守備軍參謀長  
 上海駐在武官  
 海軍參謀長  
 外事課長  
 第一守備隊司令官  
 基隆要塞司令官  
 臺南憲兵隊長  
 發送先

陸軍次長  
 外務次長  
 北京公使館附武官  
 天津駐屯軍司令官  
 中支那派遣隊司令官  
 臺南總督府民政長官  
 警視總監  
 廣東總領事  
 廣東井上中佐  
 第二守備隊司令官  
 澎湖島要塞司令官



寫

電受<sup>南京</sup> 大正七年十二月廿一日  
本省着

内田外務大臣

清野事務代理

第一〇四号

十月二十二日李純が小官ニ対シテ為シタル談話ノ要領无ノ通

前畧

(一) 福建、陝西ニ於ケル北兵<sup>兵</sup>ノ行動ハ一般世人ノ誤解ヲ招キタルガ如キモ事實ハ南北兩軍ニ屬セザル土匪アリテ兼ニ南方ニ交渉シタル慶南方モ其處置ニ因

外務省

難ナリトノ事ナリシヲ以テ北方、派兵ヲ見タル次第ニテ南方側ハ既ニ此ノ事ヲ諒解シタルモ今後斯ノ如キ誤解ヨリ避クル為メ予ハ北京政府ト打合セノ上(一) 西省ニ於ケル前線、兩軍ハ現在ノ地位ヨリ各五十里後方ニ退クコト

(二) 増援軍ハ現在ノ位置ヨリ前進セザルコト

(三) 中立地帯内ノ土匪ハ兩軍打合セノ上討伐スルコト

(四) 兩軍退却ノ実行

其他、打合セニ立会ハシタル為メ李純及和平期成会ヨリ各一名宛ラ西省ニ派スルコトノ条件ヲ南方ニ提出セリ之ニ對シテ返答ハ稱<sup>謝</sup>セザルモ南方ニ於テモ異議ナカレバト思考スル要スルニ本件ハ妥協ノ道リニ何子ノ實トヤラス (一後畧)

原書ニ支那内政ニアリ

解二二一  
被受00065號

大正八年一月 六日 接獲

臺灣參謀第七三號

大正七年十二月十九日

臺灣總督府陸軍參謀部

第一課

南支情報第六五號

十二月上旬ニ於テ福建ノ情況

一、泉州附近ニ於テ南北西軍ノ情況

二、銅山方面ノ情況

三、廈門ノ情況

四、漳州ノ情況

田ノ下ニカク

十二月上旬迄ケル福建ノ情況

諸情報ヲ綜合スルニ十二月上旬迄ケル福建ノ情況

泉州附近ニ於ケル南北兩軍ノ情況

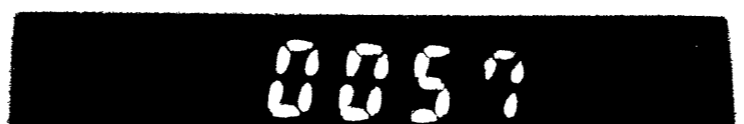
土匪ヲ含メル南軍ノ一部隊(峽數約門)十二月上旬ヨリ泉州ノ南方五店市(青陽市)方面ニ活動ヲ開始シ同月八日泉州城内ヨリ進出シ来ル北軍約三營ト交戦シ二十四名ノ死傷者ヲ出シ五店市方面ニ退却セリ

其後北軍ハ城外ノ守備ヲ嚴ニシ各城門ハ晝夜共殆ト閉鎖スルニ至レリ泉州城内ノ北軍中ニハ南軍ニ投スキ意志ヲ有スルモナルモ一部強固隊ナル

為ノ今日迄其ノ目的ヲ達スルニ至ラス城内ノ住民モ亦南軍ニ投歸セシトヲ希望シアリ

興化ヨリ惠安ニ至ル帶ノ海岸ニハ北軍駐屯シアルモ山手ニ南軍並土匪及ヒ少許リノ廣東軍屯在シアリ泉州附近ノ南北西軍ノ對陣線ハ五店市棺橋溪尾河市ヲ連ル線ナリトス

北軍ノ兵數ハ洛陽ニ營清涼山二百五十乃至二百砲三門ヲ備フ南安城内ニ營乃至二營(約一千)及砲五六門泉州城内ニ約千五百アリ泉州ニ在リシ賈司令官ハ俸給經費等請求為目下福州へ出張中ナリ同地北軍將卒ノ俸給數々月分不渡ナル為ノ何レモ困窮ニ屆リ



十月九日十日頃彈藥ヲ搭載セシ北軍ハ蒸汽船及  
ジャンク各一隻泉州ニ到着セリ又泉州在住ノ頼忠ハ今尚  
木表面北軍ニ屬シ形勢ヲ觀望シツアリ

二銅山方面ノ情況

詔安ニ駐屯セル南兵ハ俸給ヲ受ケルコト已ニ三月及ヒ  
窮困ノ為ニ富豪ヲ脅迫シテ漸次掠奪的ナラントシ人  
心恟々トシテ知事ニ訴フルモ知事亦為ス所ヲ知ラス該知  
事林興奎ト稱ス福州人ニシテ南軍ニ降伏セシ北軍ノ  
營長ナリト

三廈門ノ情況

唐國護福州ニ赴ク  
唐國護ハ李督軍ノ召電ニ依リ十月二十四日廈門

ヨリ福州ニ往ケリ之レ李督軍ハ重要事件アリテ不日  
北京ニ赴ク付不在中唐ヲシテ軍務ヲ代理セシムル為  
ナリト云フモ唐ハ愈々辭職スル決意ヲ有シ歸省ヲ  
願ヒ居レリ

名龍濟光殘兵ノ狀況

廈門港内ノ無人島ニ天幕生活ト飢寒トニ苦シミ  
ツアリシ龍濟光ノ敗殘兵ハ便船ヨリ上海ニ轉セシモノ  
十月廿頃迄ニ約五百名ニ達セリ又夜中舢舨ニ搭シ  
テ密カニ廈門市街ニ潜入シ三々五々支那客棧ニ宿  
泊セルモノ其ノ數約百名ヲ算スルニ至レリ廈門警備  
司令部ハ秘密ニ偵探ヲ特派シテ彼等ノ行動ヲ  
調査中ナリト

3. 英船南洋航路復活

近時厦門ヲ起莫トシテ南洋諸島へ航行セシキ  
乃至三十噸級ノ英國船ハ歐州戰ノ為徵發セラレ  
三四年間廢航トナリ居リカ十一月一日頃ヨリ何レモ  
解傭セラレテ未厦ニ南洋厦門直航ヲ復活セ  
シ為俄カニ船腹ニ餘裕ヲ生シ現今載貨旅客  
共ニ不足ノ觀アリ

4. 厦門第一署買収

厦門警察巡警約五百人アリ月俸二三ヶ月未  
拂ナリ已今得ス厦門水仙宮街ニ所在スル第  
署ノ官衙ヲ厦門銀九千五百元ヲ日本籍民  
黃通川ニ賣渡シ思明縣ノ會印ヲ与セシ警察

廳長史廷賜ノ賣渡証ノ入キト共ニ現銀ヲ引渡  
シ十月七日授受ヲ了セリ

5. 厦門商工會設立

商工業ノ發達、同業者間ノ爭議仲裁、請願事  
項取扱等ノ目的ヲ以テ在厦門邦人柏原秀吉上  
東寅太郎等發起人トナリ日支人ヲ以テ本會ヲ設立  
ス。ト計畫中ナリト現時厦門ニ邦人ニ日本人居留民  
會、台灣人ニ台灣公會支那人ニ商務總會ヲ有  
シ各獨立シテ其間何等連絡ナキモノナリ而シテ  
今田計畫セラレタル商工會ハ形式ニ於テ日台支人  
ノ連鎖團體トシテ觀アリ果シテ意ノ如ク成立ラ告テ  
加之運用宜キヲ得ハ日支親善上相當効果アリ



ルヘシト

交通開始

廈門ヲ中心トスル航路交通ハ支那南北戦争ノ為  
一時杜絶ノ状況アリシモ近來概木開通セリト云フ  
又雜件

一廈門砲台ヨリ目下彈藥ニ千万發賣下交渉中  
ナリト

一戰地ヨリ引揚ケタル浙江軍ハ廈門ニ於テ冬服支給  
ヲ受ケツツアリ

一具北軍ハ中國銀行廈門支店ニ於テ十萬元借款  
アレトモ北京政府ハ之カ支拂ヲ拒絶セリト

一警察廳長史廷賜ハ近々旅團長ニ推舉セラレ福  
四

州ニ向テシト

一安溪永春等ノ鐵山ヲ抵當トセル四百萬元借款ニ  
關シ近々上海方面ヨリ日本人技師未廈調査ス  
ル由又三井洋行員モ同方面へ出張スキ計畫アリト

一林季商ハ台中廳下ノ林烈堂ト合同シ未ル白曆正  
月ヲ以テ龍岩州炭山開掘ヲ始ムシト説アリ

一廈門税関ノ邦人對シテ態度甚シク苛酷ニシテ損  
害ヲ被ル下夥シク目下北京總稅務司ハ右ノ事  
情等ニ關シ調査ノ為メ當稅關設立以來始メテ  
未廈セリト

四漳州情況

一飛行機試運轉



青音飛行機ノ試運転ヲ行ヒ好成績ヲ収メ正式  
ニ試験ヲ行ヒ城上迄至周リ但シ一般觀覽料ヲ徴  
收セリト云フ同月七日助手搭乗飛行ヲ行ヒシ南  
門詩敦社ニ墜落搭乗者即死然亦破損シ  
目下修理中ナリ

一説ニ依ルニ此一台ハ豫ラ汕頭ヨリ陸上ヲ運搬シ来リ  
シ南軍所屬ノ三機中ノ一ニシテ數回漳州上空ヲ  
廻リ更ニ江東橋附近南北兩軍ノ戦線ヲ一周後  
漳州ニ歸リシモノナリ之カ為メ民心ハ南軍ニ傾キ北  
軍ノ士氣頗ル阻喪セリト云フモノアリ

又雲南軍漳州ニ集中ス  
雲南軍目下雲南方面ヨリ漳州ニ向テ集中シテ

アリ十月十六日三百名入城セリ目下城內ヨリ戦線へ往  
復シシルモノ日々千ヲ以テ數フト

五



發送先

參謀次長  
海軍司令部次長  
關東都督府陸軍參謀長  
坂西少將  
青島守備軍參謀長  
上海駐在武官  
廣東總領事  
南京駐在武官

陸軍次官  
外務次官  
北京公使館附武官  
支那駐屯軍司令官  
支那派遣隊司令官  
廈門總督府海軍參謀長  
福州領事



4181000

18700484

大正八年一月十五日

臺灣參謀第一號

大正八年一月九日

臺灣總督府陸軍參謀部

第一課

南支情報第一號

福建事情

於大正七年  
二月下旬

第一、福州ノ情況  
第二、廈門ノ情況

5-1415

0063

第一、福州ノ情況

目次

- 一、王永旅團ノ來閩
- 二、王永泉ト徐鏡清
- 三、旅長王麒ノ現況及王旅李督軍トノ關係
- 四、南北妥協ニ關スル兩三名ノ意見及將來ニ關スル見込
- 五、時事雜件
- 六、戰況一束

第一 福州ノ情況

一、王永泉旅ノ來閩

王永泉旅ノ援閩派遣ノ命ヲ受ケタルコト久シ最  
初ハ蘇督李純ノ暗中妨害ヲ受ケ南下スル  
能ハス其ノ後種々ノ曲折ヲ經テ漸ク江ヲ渡  
ルヲ得タルモ復タ南方派及福建人等ノ極力妨  
害ヲ受ケ遂ニ水運ニ依ル能ハス最後ニ浙江ヨリ  
陸路南下ヲ策セシモ亦浙江福建人ノ妨害運  
動甚タ盛ニシテ意ノ如ク進行スル能ハス昨  
今ニ至リ漸ク福建ノ地ニ到着スルヲ得タリ  
然レトモ其ノ所在等情報極メテ區々ニシテ正  
確ナル能ハス明瞭ナルモノ如シ

第一團第一營(黃克德)

第三營(關增榮)

(第一團長陳從善)

正月二十日福州城内到着

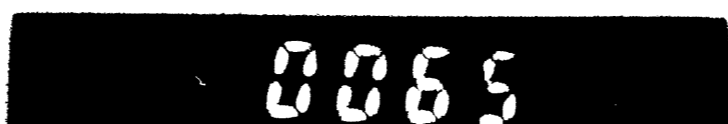
第二營(張鳳濤)

延平

其ノ他不明ニシテ王旅長ハ未タ福建ニ到着セサルカ如シ

二、王永泉ト徐鏡清

王永泉ト徐鏡清ト個人的關係ノ有無如何ハ知ル  
能ハサルモ徐鏡清カ王旅ノ陸路福建ニ入ルヲ好  
マサルハ一般的ニ推測スルヲ得ヘシ既ニ徐鏡清  
ノ駐劄地タル建甌人民カ王旅ノ同地駐劄ニ對シ  
反對運動ヲ起シタリト報アリ又徐鏡清モ兩軍



ノ同地駐劄ハ無智ノ兵卒等ノ小衝突ヨリ或ハ大衝突トナリ終ニ安穩ヲ保ツ能ハサルヤモ計リ難ク之レニ對シ責任ヲ負フ能ハストシ辭職ヲ申出テタリトノ報アリ蓋シ徐鏡清ハ其ノ勢力範圍(建甌ヲ中心トシテ其附近數縣)ニ他軍ノ駐屯スルコトヲ最モ厭忌スルモノニシテ王旅ノ入閩ニ根柢ヨリ反對スルニハアラサルヘシ徐ハ永ク福建ニアリテ一種ノ勢力ヲ有スルヲ以テ南北共ニ彼ノ感情ヲ傷ケサランコトニ勉メ徐モ亦南北衝突ノ波浪ニ接スルトキハ中立ノ態度ヲトリ來レリ而シテ其ノ實力ハ甚タ乏シキヲ以テ實力ヲ以テ王旅ヲ排斥セントスルモ能ハサルヘキモ彼ニ輿論ノ聲援ナル外勢ヲ有ス李督軍亦此間ノ消息ヲ知ラサルニ非ス故ニ李督軍王旅長等徐ノ勢力ヲ尊重シ同地駐劄ヲ避クルニ注意セハ終ニ衝突ヲ見ルコトナカルヘシ

三、旅長王麒ノ現況及王旅李督軍トノ關係

王麒ハ久シク母ノ喪ニ服シ休務シアリシモ最近出務スルニ至レリ

王麒ノ爲スナキハ已ニ定評アリ李督軍ハ初メヨリ王麒ヲ以テ將領ノ器ニアラストナシ彼ヲ眼中ニ置カス王永泉トハ從來何等ノ關係ナキモ李督軍ノ勢力衰ヘシコトヲ念願セルヲ以テ王旅ノ入閩ハ固ヨリ大反對ナリ然レトモ王麒トシテ何等施スノ

ノ方法ナキカ如シ王麒ハ元來福建唯一ノ旅長ニシテ外界ノ勢カト輿論ヲ利用シ得ルノ地位ニアルモ優柔不斷何等ナス所ナシ近時福建人モ彼ヲ信賴スルコト尠ク益々勢力ヲ得ル能ハス終ニ旅長ノ空位ヲ守リ熟シテ自然ニ落チ來ル時機ヲ俟ツノミニシテ何等ノ行動ヲ執ルニ足ラス加之彼ノ部下ハ殘破セル一團ト砲工各一營宛ヲ各所ニ散在シテ有セルノミニシテ其ノ歩兵第二團ハ北軍ノ三營ヲ以テ補充セラレ其ノ團長ノミ舊部下ノ福建人ナリ從テ此三營ノ將卒等ハ決シテ李督軍ノ意ニ反シテ王旅長團長等ノ命ヲ用ユルモノニ非ス反テ王麒等ニ威ヲ示スノ態度ヲ持スルナルヘシ

四、南北妥協ニ關スル兩三名ノ意見及將來ニ關スル見込

南北妥協ニ關シ其ノ成立ヲ希望セサルモノ殆トナシ福州人ハ元ヨリ北軍ト雖已ニ戰ニ飽キ奔命ニ疲レ已ニ不利ナル條件ナラサル限り其ノ成立ノ一日モ速カナランコトヲ望ムノ情切ナルモノアリ但シ其成立ノ満足ニ進行シ得ヘキヤ否ニ至テハ所見區々ナルモ多クハ悲觀セルモノノ如シ

參謀長張哲培ノ所見ヲ叩キタルニ彼亦悲觀說ヲ  
持シ左ノ如ク論セリ  
南北双方共和議ニ對スル論議ハ皆公明ヲ裝フ  
ト雖其ノ實際ニ至ツテハ自己權利ノ思想ヲ離ル  
ル能ハス故ニ双方ノ各分子ニ皆適當ノ地位ト權  
利トヲ保有セシメ得ルヤ否ヤ懸テ最大ノ問題  
トナス妥協ノ困難ハ此點ニアリ南北ノ爭フ所ノ眞  
想茲ニアリトセハ其ノ妥協ノ困難ナル知ルヘキナリ假令  
外國カ實力ヲ背景ニ示シ更ニ進シテ干涉ヲ試ム  
ルニ至リ平和ヲ強成セシムルトスルモ久シカラスニテ  
再ヒ混亂ヲ醸成スヘシ支那ノ前途ハ決シテ樂觀  
ヲ許サスト

四

警察廳長並同廳翻譯官ノ意見モ大同小異ニ  
シテ王麒及其ノ部下ノ如キモ概テ同様ノ意見ヲ  
有ス  
督軍又薩鎮冰等ハ言フ左右ニシテ特殊ノ意見ヲ  
述フルヲ欲セス  
要之福建ニ於ケル重要ノ人物ニシテ南北妥協ニ關  
スル定見ヲ有スルモノナク單ニ和議ヲ希望スルニ止マ  
リ其ノ條件ノ如何成立ノ見込如何等ニ就テハ皆  
茫洋トシテ捕捉スルヲ得ヘキ意見ヲ吐露スルモノ  
ナシ

新聞紙ノ論調ニ至ツテモ平和ヲ望ムノ急ナルノミニシ  
テ徒ニ南北兩方ノ共ニ自制ノ良能ヲ發揮セシコトヲ



希望セルニ過キス一モ平和條件ノ基礎トナルヘキ  
モノヲ發表シタルヲ見ス偶々平和ニ關スル意見  
ヲ發表スルモノアルモ只法理ヲ啾説スルニ止マリ  
眞際ノ講和基礎條件ト見ルヘキモノナシ  
福建ニ於ケル平和期成會ニ於テモ其名ノミニシテ何  
等方法ヲ講スルニ非ス他ニ共鳴シアルノミナリ  
以上ノ如キ狀態ヨリ觀察セハ五國ノ忠言ノミヲ以テ  
自ラ統一スルカ如キ事ハ不可能ナルヘク遂ニ干涉  
ノ已ムナキニ至ルヘシト信セラレ

五時事雜件

(一) 李督軍ノ北京行中止

五

先回李督軍ハ上京スル豫定ニテ諸種ノ準備ヲ  
整ヘタルモ軍務尚繁忙ニシテ福州ノ地ヲ離  
ルル能ハス依テ上京ヲ中止スルニ至レリ

(二) 蕭奇斌所在説

九月上旬福州ニ於テ陰謀ヲ企テテ成ラス遂  
ニ上海ニ逃レタル蕭奇斌ハ現今粵軍政府ノ  
秘書ヲ勤メツツアリトノ説アリ

(三) 福建軍官ノ進級

左記ノ如ク正式中央政府ノ叙任アリタリ

大總統令 十七日電達

姚建屏 陸軍少將ニ任シ中將銜ヲ授ク  
張清汝 陸軍歩兵上校ニ任シ少將銜ヲ授ク

王文藻 陸軍歩兵中校ニ任シ上校銜ヲ授ク

田順昌 陸軍歩兵中校ニ任ス

沈永福 陸軍歩兵小校ニ任ス

(四) 福建測量局長ノ著任

新ニ任命セラレタル福建測量局長張朝基ハ

十二月十八日著任セリ

(五) 邦人川村醫師ト督軍府顧問

在郷陸軍一等軍醫川村晋一郎氏ハ大正六年來渡福

シ開業シアリシニ今回督軍府顧問醫ノ囑托ヲ

受クルニ至レリ是レ元ヨリ領事其ノ他ノ者ノ薦選

努力ニ依ルモ邦人ノ勢力ヲ發展セシムル第一歩トシ

テ慶賀スヘキナリ將來機會ヲ得ハ斯ノ如キ方法ヲ

以テ日本人ヲ官府ニ出入セシメ親日的ニ誘致  
スルハ必要ナリト信ス

### 六 戦局一束

#### 興化方面

十二月二十日前後ニ於テ殆ント沈靜ニ歸シタルモノ

ノ如ク通商モ舊ノ如ク開始セラレ仙游興化間

モ現金輸送ハ困難ナルモ爲替取引ヲ以テ實

施スルヲ得ルニ至レリ然レトモ兩軍共同地附近

ニ駐屯シアルト舊ノ如シ

永泰

十一月上旬ニ於テ許崇智ノ部下約九營(土匪ヲ



含ムモノノ如シ砲八門機關銃十挺ヲ有スル部  
隊ヲ以テ占領セラレタルモ周永桂旅長ハ其所  
部ヲ率ヒ同地ニ向ヒ十八日恢復スルヲ得タリ南  
軍ハ德化方面ニ退却セリ

七

第二 厦門ノ情況

目次

- 一、林葆懌ノ福建督軍在厦門有力支那人ノ感想
- 二、李鼎新ノ來厦
- 三、江聲日報ノ記事
- 四、矢田部領事ノ歸朝ト在厦各事業ノ挫折
- 五、北京總稅務司離厦
- 六、南軍範圍内ニ在ル土民ノ避難
- 七、全國和平期成聯合會厦門分會ノ章程
- 八、童保煊ト陳炯明ノ電話協議

第二 厦門ノ情況

一、林葆懌ノ福建督軍在厦門有力支那人ノ感想  
福建督軍ハ林葆懌ニ同省長ハ陳炯明ニ決定セ  
シ旨南方軍政府ヨリ在厦門支那官憲ニ來電  
アリシモ在厦門支那人上流者ハ從來臨時ニ借款  
セシモノヲ返還セサルヘカラスルニ至ルヲ慮リ苦情多  
キ爲メ官憲ハ之ヲ秘シテ發表セストノ秘說アリ  
之ヲ支那官憲ニ諮セシニ答ヘテ曰ク是レ南方側  
ノ發表ニシテ所謂獨リ極メナリ若シ果シテ然  
ラハ北京國會ノ承認ナカルヘカラスト  
之ヲ要スルニ南軍側ヨリ任命セル督軍ト省長カ來  
任セントセハ現在李督軍ト妥協スルカ彼ヲ驅逐セ

九  
サルヘカラス之レ動亂ヲ再起スル憂アルノミナラス  
今日以上ノ誅求ヲ敢テスルヘシトテ大ニ憂色ア

二、李鼎新ノ來厦

故袁世凱カ帝政ヲ復活セントスルヤ支那南北艦  
隊ヲ率テ上海ニ於テ獨立ヲ宣言シ南方ニ對シテ  
極力援助セシ李鼎新ハ上海ヨリ來厦シ現ニ鼓  
浪嶼中英旅館ニ滞在シ何事カ調査ニ忙殺サレツ  
ツアリ一説ニ依レハ在厦北方艦隊慰問ノ爲メ來  
厦セシナリト

三、江聲日報ノ記事

南方派即チ革命機關新聞紙タル江聲日報ハ左

ノ如キ記事ヲ掲載セリ

日支ハ同盟ノ形骸ヲナスモ事實ハ隱然タル野心ヲ有スルハ中外ニ昭然トシテ明カナリ陸軍中將徐樹錚ハ日本ヨリ三百萬圓ヲ借款シ得タルハ原内閣ハ從來ノ寺内内閣トハ方針ヲ異ニセリト公唱シナカラ其ノ一部分トシテ徐ニ三百萬圓ヲ貸與セシハ更ニ幾千萬圓ヲ貸與スルヤ豫知スヘカラス是レ段祺瑞ヲ援助スルモノニシテ結局我カ民國ヲ毒スルモノナリ云々

從來廈門日報、南聲報、閩南日報、民鐘日報等カ、  
發刊勿々先ツ排日氣分ヲ滿載シテ人氣取リヲナ  
セシ一種ノ習慣的軌道ヲ踏ミタルニ過キサルモ時節

十

柄參考ノ爲メ茲ニ記載ス

四、矢田部領事ノ歸朝ト在厦各事業ノ挫折

厦門ニ於ケル日支合辦ノ厦門醫院ノ敷地無料交  
付、同醫院ニ對スル寄附金募集及臺灣公會附  
屬事業タル旭瀛書院ノ小學校並米國文書院ノ  
制度ニ倣ヒ中學校ヲ新設スヘク準備中矢田部  
領事カ厦門ヲ去リシハ是等ノ事業計畫進行上  
一大頓挫ヲ生シ寧口逆轉セントスル傾向アルハ頗ル  
遺憾トスル所ナリ

五、北京總稅務司離厦

北京總稅務司ハ厦門稅關ノ苛酷ナル態度等ヲ  
調査セシカ爲メ十月十五日來厦シ同十七日稅關ノ燈



臺巡邏船平徵ニ搭シ福州ニ海ニ向ヒ出發セリト  
廈門商務總會々長黃慶元ノ談ニヨレハ廈門  
稅務司カ種々苛酷ナル課稅ヲナシ又ハ誤テ貨  
物ヲ押ヘラレシトキハ必ニ倍以上ノ罰金ニ附セラ  
ルルハ在厦商人ノ堪ヘ得ヘキニアラスト

就中厦門稅關ニ苦メラルルハ在厦門邦商ニシテ  
支那商會ハ總稅務司來厦ノ機會ニ於テ曰支  
兩國商人提携シテ厦門洋稅務司ノ異狀ヲ  
訴ヘントセシモ若シ之ヲ訴フルトキハ同稅關長  
タル英人ノ爲メ必ス嚴酷ナル復讐ヲ受ケンコトヲ  
恐レ其ノ意ヲ果タササリシ在厦門稅務司ハ常ニ  
「予ハ課稅權ヲ有ス而シテ一般商人ノ心裡ハ洩  
ス」

餉脫稅セントスル常習アリト公言シ居レリト云フ  
六南軍範圍内ニ在ル土民ノ避難

南安、永春、安溪方面ヨリ避難來厦セシ支那人  
ノ談ニ依レハ同地方閩南軍ノ下ニ隱レツツアル土  
匪ハ一般人民ニ對シ軍資ト經費ノ名ヲ以テ苛  
酷ナル賦課ヲナシ應セサレハ家族ヲ虜去シテ人  
質トナスカ故ニ已ムヲ得ス土中ニ死藏セシ現銀  
ヲ取り出シテ贖回セシモノ多ク舊年末ニ接近スル  
ニ從ヒ益々猛烈トナリ良民ノ困苦甚シク爲メニ  
種々ノ口實ヲ設ケテ來厦シ家族一團トナリテ南  
洋ニ出稼旁々避難スルモノ激増セリ是レ近來歐洲  
大戰ノ終熄ト共ニ英國汽船ノ續々來厦南洋航



路ヲ復興シタルニモ起因スルカ如シ

七、全國和平期成聯合會廈門分會ノ章程

第一條 本會定爲全國和平聯合會廈門分會

第二條 本會以促進全國和平統一爲宗旨

第三條 本會會所設在廈門總商會

第四條 凡國民年滿二十以上品端學優不在南北

軍政二界者均得爲會員

第五條 凡志願入會者須由本會發起人二人介紹方可入會

第六條 本會設評議員幹事二部幹事部設正主

任一人副主任一人主任主持會中一切事宜副主任

協助正主任辦理會務正主任因事未能到會

士

時由副主任代行職務

第七條 本會評議員幹事員由會員選舉本

會會員充之

第八條 本會會務由評議員議定幹事部執行之

第九條 評議會設評議員人幹事部設幹事員

人

第十條 評議幹事二部辦事細則由該二部自行規定之

第十一條 本會俟達到和平統一目的即隨總會自

行解散

第十二條 本簡章如有未盡事宜得隨時議改之

第十三條 本會經費由會員共同擔任之  
八、童保煊ト陳炯明ノ電話協議

廈門及漳州間ニテハ南軍側ハ在厦浙閩援粵軍副司令童保煊ヲ漳州ニ迎ヘテ妥協セントシ北軍側ハ南軍總司令陳炯明ヲ廈門ニ迎ヘテ妥協セントセシモ何レモ相疑ヒテ單身敵地ニ入ルハ種々ナル危険アリトシ事故ニ託シテ相互ニ迴避シ遂ニ果サス茲ニ於テ南北兩軍ノ首領ハ商議スル方法上北軍ハ江東橋附近マテノ電話ヲ利用シ南軍ハ漳州マテノ軍用電話ヲ利用シテ之ニ接續シ北軍ハ嵩峙マテ出張シ相互ノ首領カ電話ニテ種々協議スルコトトナリシハ去ル十二月十五日以後ナリ之レ陳覺明(陳炯明ノ弟)カ福州ニテ李督軍ニ會見歸漳後童保煊、陳炯明ノ會見ノ必要起リシ爲ナリト

福州領事  
臺灣總督府民政部課  
臺灣總督府海軍參謀長  
上海駐在武官  
青島守備軍參謀長  
坂西少將  
關東都督府陸軍參謀長  
海軍々令部次長  
參謀次長  
發送

先陸軍  
外務部次官  
北京公使館附武官  
支那駐屯軍司令官  
中支那派遣隊司令官  
臺灣總督府民政長官  
臺灣總督府警視總長  
廣東總領事



第01941號

公第七號

大正八年一月廿日 接獲 警政務 第一課

大正八年一月十日

在厦門日本領事館

事務代理市川信也

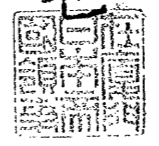
外務大臣子爵内田康哉殿

和平期成會成立並最近南北西  
軍狀況報告件

昨午十月林戰令發布以來當地於南北

西軍ハ江東橋附近ニ對峙シ空ニク中央政  
局、周展ヲ待、ミミシテ當地地方ニ於、モ平  
和運動ノ聲漸ク擡頭シ來リ客月ニ十七日  
當地商務總會ニ於テ大會ヲ開キ厦門  
和平期成會ヲ設立シタリ 其、役人左ノ  
如シ

- 幹事部主任 黃世金 (當地商務總會長)
- 左 副主任 孫印川 (思明縣教育局長)
- 幹事 鄭霽林 (商會會座)
- 左 盧乃沃
- 左 李有禧 (思明縣學界代表)
- 左 吳景川



市川信也

評議員

林增塔 (學界兼茶商)

洪曉春 (商務總會前會長)

黃秀娘 (籍 莊)

黃潮鄉 (廈門金山鄉總董)

呂少默 (學界)

許文彬 (學界)

陳孫樹 (學界)

錢晴江 (藥酒業)

之付テ商務總會座弁周墨史 (當地學界ノ重鎮)ノ談ニ依リ北軍側ニ於テハ相當ノ面目ニ平和ノ進行ヲ希望シ居ルニ南軍中許崇智趙光宋遠瀾三人ハ今日迄未タ

相當ノ地位ヲ得居ラス以テ平和成立セハ自己ノ立場ヲ失フヲ恐レ反對ノ態度ヲ有シ南軍側ヨリ任命セラレタル福建省長陳炯明ハ其廣東ニ於ケル根據薄弱ナルヨリ平和成立後ニ於ケル新開原ヲ見込テ不即不離ノ態度ニ在ルカ要スルニ南軍側ノ平和運動ニ對スル眞意短ル疑ハシキモナルヤニ觀察セラレ現ニ漳州ニ於テハ方聲濤ノ率ユル軍隊ハ著シク増加シ江東橋附近ニ於テ南軍モ亦墮濶ヲ深クシ持久ノ計ニ定テワ、アリトシコト福建内地ニ在ル南軍ハ種類一ナラス陳炯明方聲濤許崇智等ハ正規ノ南軍キレトモ趙光



王温林知荆林資鏗宋遠淵等一軍兵八五  
匪ヲ糾合シタルモ、ニテ靖國軍、閩南護國  
軍、閩南護法軍ト稱シ有ユル不佞ヲ逞シラシテ  
人民怨嗟ヲ買ツ、マルカ彼等南軍ハ其正規  
兵タルトモ、匪軍タルトモ、尚ハ公軍無算、欠之甚  
敷、漳州附近ニ於テモ、廣東國債募集ノ名  
義ニヨリ所在人民ニ苛酷ナル誅求ヲ爲シ、  
、アリテ當地之商會ニ於テハ、莫ヨリシテ陳ノ  
福建省長任令印ヲ喜ハカルカ如シ  
右御參考、迨南北軍近狀併セテ報告申進  
候敬具  
寫送附先在支公使

受00791號

秘

大正八年一月廿一日 陸軍部 參謀部

一月二十日

電報

一月十八日午後十一時五分發  
十九日午前六時二五分着

次長

宛 在臺灣參謀長

台電第十三號

福州報 李督軍(李厚基)ハ在北京劉冠雄及南京和平  
期成會ニ向ヒ福建軍ハ停戰以來確實ニ停戰セルモ南軍  
ハ停戰ヲ口ミツ、事實ハ侵畧シツ、アリ又林葆懌ヲ福建  
督軍ニ任シ入閩準備中ナリ其真意何レニアルヤヲ疑フ宜シ  
キ由ヲ觀察シ和平ノ斡旋ヲ希望スト打電セリト而シテ督  
軍モ和平ヲ希望セルモ再ヒ戰フ、已ムナキニ至ルヲ達觀セルモ  
ノ、如リ盛ニ兵器彈藥ヲ整備シツ、アリ

陸軍

5-1415

0082

解回

被授C0986號

大正八年一月廿七日 接獲

駐台總督府 陸軍部 參謀部

臺灣參謀第九號

大正八年一月二十一日

臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第四號

福建ノ近況

- 一、清鄉事宜消息
- 二、李督軍ノ近況
- 三、李督軍ノ中央部ニ對スル報告
- 四、陳炯明ノ軍費徵集
- 五、南軍ノ金門島攻撃

一、清鄉事宜消息

一、匪徒招撫

清鄉所ハ其ノ施設並經費ノ關係上實績豫期ノ如クナラサルモ漸次匪徒ノ招撫ニ努メ歸順スルモノ在ルニ至レリ最近匪首孫國鎮及外二名歸順セシ狀況左ノ如シ

α、督軍署公報ニ依レハ福安一帶ノ匪首劉宗彝、吳庭光兩人ハ清鄉督辦處諮議陳文翰、副官王輔等ノ勸誘ニヨリ雜槍七十三枚彈藥百餘發ヲ林營ニ交付シ部下ヲ解散シテ歸順ヒリ清鄉處督辦ヨリ李督ニ對シ其ノ改過自新ヲ寬サレシコトヲ請ヒ李督

軍之レヲ允シ其ノ旨ヲ通告セリ

十二月三十日清鄉處ヨリ參議林立、副官長胡桂高、委員李春榮、王光宗ヲ特派シ督軍署科員高翼臣ト會同シ閩候縣福州西門外穆源區ニ到リ孫國鎮ノ部下及其ノ武器ヲ檢査セシメタルニ何レモ誠意ヲ以テ歸順セリ其ノ數約四百名ニシテ尚上游地方ヨリ一連來降スル筈ナルモ未タ到着セズ而シテ孫國鎮ハ清鄉處ニ營長トシテ就職スル筈ニシテ既ニ委任狀ヲ交付セリト

二、清鄉處ノ武器裝具ノ請求

一月八日會辦黃培松ハ督軍署ニ至リ李督ト

面接シ武器裝具ノ支給ヲ請ヘリ其ノ理由ハ速ニ  
軍隊ヲ派シ上下游ノ匪徒ヲ清掃スルニ非サレ  
ハ人民安ラカニ舊曆ノ越年ヲナス能ハスト云フ  
ニ在リ李督軍ハ速ニ籌備シ不日確答スヘシ  
トノ事ナリ

尚日本側ヨリ武器ノ購入ヲナスヘク中央部ニ申  
請中ナルカ如シ

### 三、清郷處ト南軍トノ連絡

清郷處ト李督軍トノ意志未タ充分ニ疎  
通ヲ見ル能ハス却テ南軍トハ秘密ニ密接ナ  
ル連絡ヲ保持シアルカ如シ

### 二、李督軍ノ近況

督軍李厚基ハ厦門附近ニ於ケル戰事失敗ノ爲  
メ其名聲全ク地ニ落チ其ノ位置ノ保持困  
難ノ状態ナリシモ歸閩後人心收攬ニ努メ一面  
世界及南北ノ狀況ハ静穩ニ歸セントシツツアル  
ノ機ナリシヲ以テ幸ニ人望ヲ恢復スルヲ得タルモ  
ノノ如ク今日ニ於テハ甚シキ惡罵ノ聲ヲ聞カサル  
ニ至レリ然レトモ福建督軍問題ハ南北和平上ノ一條  
件タルヘキヲ以テ若シ自己ノ位置ノ危険ナル場合ニ應ス  
ルカ爲メ諸種ノ準備中ニアルカ如ク王永泉旅ノ招致兵  
工廠ニ命シ晝夜兼行彈藥ノ製造ニ從事セシメアル  
カ如キ其ノ一端ト見ルヲ得シ

三李督軍ノ中央部ニ對スル報告

李督軍ハ中央部ニ對シ左ノ如キ報告ヲナシ以テ南方ヲ中傷セリ之レ新聞紙ノ報スル所ナルモ參考トナスニ足ルヲ以テ記シテ以テ報告トス  
(前畧)我軍令ヲ奉シ停戰シ陣地ヲ嚴守スルコト既ニ久シ陳炯明仍ホ全カヲ舉ケテ土匪ヲ驅使シ各處ヲ紛擾ス耿團長ハ命ニ從フテ莆田涵江一帶ヲ分守セルニ許崇智ハ前月二十日ヨリ以來全カヲ舉ケテ仙遊ヨリ莆田涵江ニ進撃包圍スルコト十餘日我軍ノ爲メニ撃退セラレタル後陽ニ講和ヲナシ暗ニ永泰ヲ襲ヒ蔣國斌ノ兵ト合シ本月八日遂ニ我永泰ヲ陥落セシム仙遊方面ニテハ近口復夕土匪二千餘

三

名ヲ派遣シ機關銃ニ挺山砲四門ヲ携帶シ出發セリ情報ニヨルニ瀨溪ニ到著セシモノ六百餘名黃石ニ到著セルモノ四百餘名ナリト云フ團長耿錫齡其ノ都度電報シテ急ヲ告ケ援兵ヲ請ヘリ蔣國斌ハ更ニ兵二千ヲ率ヒ永泰縣嵩口ヲ進撃セリ又匪首楊某ハ二千餘人ヲ集合シ本月六日泉州青陽市一帶ヲ占領シ泉州城ニ向テ進攻セリ十七日匪首藍本ハ虛ニ乘シテ古田縣署ヲ掩撃セリ又姚師長ノ二十日附電報ニヨレハ鄭吳等ノ匪閩清閩侯ノ兩縣交界ノ下洋洋裏口一帶ニ播踞シ我水口ヲ攻撃シテ我上游ノ策戰ニ線ヲ斷タント企圖シツツアリ此等ノ如キ陽ニ



停戦ヲ以テ名トシ陰ニ其ノ侵畧ノ計ヲ行フ  
モノ如シ實ニ居心測リ難ク防壓ニ苦ム我  
大總統ノ西南ニ電致シテ嚴詞質問セラレニ  
ヲ詰フ彼若シ破壊ニ意アルハ福建亦惟各軍  
隊ニ命シテ正當ノ防衛ヲ爲スノ止ムヲ得ザルナリ  
因ニ軍隊ノ搜獲セル土匪ノ公文書類及旗幟  
又彈藥箱ノ封印等ヲ檢スルニ悉ク陳炯明  
ノ部下ヨリ發出セルモノナルコト確實ナル證アリ  
該證據物件ハ別ニ送呈ス謹テ聞ス

李厚基

#### 四、陳炯明ノ軍費徵集

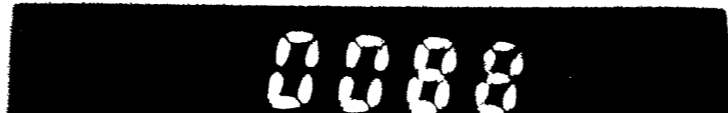
漳州ニ於ケル南軍軍費ノ募集ハ既ニ四萬元  
第二回三萬餘元ヲ募集セシ所近次又公債  
募集ノ名義ヲ以テ商人四萬元、四個ノ郷社三  
萬元、石碼三萬元計拾萬元ヲ獲得セント企  
圖シ之レカ爲メ期限ヲ三ヶ年トシ債券ノ發行  
ヲ爲スニ決シ舊臘二十九日迄ニ強制的ニ應  
募ヲ命シ之ニ應セサルモノハ監禁スヘキ旨ヲ  
公文ニテ各家ニ通牒シ既ニ在漳州有名ナ  
ル商店本裕ハ二百五十元、美豊ハ二百八十元  
ヲ負擔セシメラレシト云フ又昨年末ヨリ漳  
州近郷ヨリ產出スル砂糖ニ對シ一擔二角

ノ課税ヲナシ老酒製造ニ要スル資料砂糖  
水ニ對シテハ一擔五錢ヲ課税シ漳州城門  
外通路上ニ於テ之カ徵集ヲナシ各城門ニ  
ハ兵ヲ派シ脱税者ヲ監禁シツツアリ

五、南軍ノ金門<sup>島</sup>攻撃

一月三日泉州西南方面ニ在リシ南軍ハ金  
門島ヲ攻撃セントシテ其ノ目的ヲ果サス  
初メ南軍ハ軍隊ヲ三分シ一隊ハ北軍ヨリ分  
捕リタル小蒸汽ニ搭載シ海上ヨリ他ノ二隊ハ  
背面ヨリ上陸シ三方面ヨリ合撃セントセシモ  
密偵ノ報ニ依リ豫テ來攻ヲ豫期シ準備

整ヒ居タリシ結果却テ南軍ハ北軍ノ逆撃  
ニ遭ヒ其ノ成功ヲ見スシテ引キ揚ケタリト



廣東總領事  
 臺灣總督府海軍參謀長  
 上海駐在武官  
 青島海軍參謀長  
 坂西少將  
 關東都督府陸軍參謀長  
 海軍司令部次長  
 參謀次長  
 發送

南京駐在武官  
 同外事務課長  
 臺灣總督府民政長官  
 中支那派遣隊司令官  
 支那駐屯軍司令官  
 北京公使館附武官  
 外務部次官  
 陸軍部次官  
 先

大正八年二月廿六日 陸務局 第一課

号外

大正八年二月十四日

在厦門

領事館事務代理市川信也

陸務局 第05787號

外務大臣官房文書課長申中千之殿

公信訂正方ノ件

客月十日附公外七号拙信和平期成會成立  
並最近南北兩軍ノ状況報告ノ件中別紙  
ノ通り亦訂正相成度此段亦依頼申進也

記

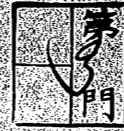
同信二枚目外九行中ノ商務總會會座辨國

墨(當地字更ノ重鎖)一ヲ「商務總會會座

辨鄭响(清時代各地知縣ヲ勤ナレトアリ)

ト訂正ノコト





電信課長

大臣

次官

七〇

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

支那の事

支那の事  
一九一〇年三月二十六日  
三月二十六日

支那の事  
有吉總領事

第一三六号

北方側、公指之依り、福建に於て、事出而  
軍境界確定問題、至レ二十三日、政務  
令司令官ト協議、上直接陳烟明ト志  
議、又ハ本省本督軍ニ電訓シ、事ニ  
十月、錢馬勳總理より朱啓鈴ニ電  
指シ、来リ、事ト云フ

公使 支那の事

秘

第4門  
號受03515辨

第4門

外

大正八年三月十七日接電

駐政務局 第二課

三月二十六日

電報

三月二十五日午後一時至八分着

參謀次長宛

在 台灣冬謀長

白電第七八號

福州電報南方軍の戦陣準備中ニテ北方軍モ軍  
隊配置ヲ変更シ再ヒ戦陣ヲ準備シタルガ如シ

陸軍

大正八年三月

5-1415

0092

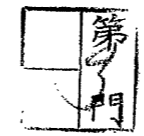
大正八年四月 二日 接受

臺參謀第六三號

大正八年三月二十六日

臺灣總督府陸軍參謀部

號 03831 受



南支情報報第四〇號

(時局)

方聲濤ヨリ臧致平軍ノ進攻ヲ報告セシ  
電文並之ニ對スル軍政府ノ返電

七三  
七三  
七三

一方聲濤ヨリ、前軍ノ報告ニ據ルニ北軍  
臧致平カ所部ノ兵沙樞、小波嶺一帶  
ノ地方ニ進攻シタル由ニ付嚴重ニ詰  
問セラレタシト請フ電

廣州政務會議鈞鑒

前軍ノ將閩南副司令張貞ノ電報ニ據レハ北  
軍ノ將臧致平カ部署スル所ノ兵連日尚ホ兵  
ヲ増シ先月二十三日ニ於テ沙樞、小波嶺一帶ノ  
地方ニ進攻シ沿道ニ火ヲ放チ復タ援兵ヲ加  
ヘテ兩村ヲ返攻シテ肉薄シ後チ第九營第三  
營ノ増加ヲ得テ前後左右ヨリ截戰シ朝ヨ  
リ暮ニ互リ彈丸雨下ス敵軍終ニ支ヘスシテ

已ニ馬巷ニ竄回シタリ但シ怪シム北庭ニテ八累  
月使電往來シ和議ヲ高唱シ居リ而シテ駐  
閩北軍ハ常ニ釁端ヲ開クコト斯クノ如シ  
何ヲ以テ大信ヲ照示セントスルヤ且該軍ノ  
過クル所村市墟トナリ少シク人心アルモノハ  
愴痛セサルハナシ應ニ軍政府ニ對シテ速カ  
ニ北庭ニ通報シ嚴重ニ詰問セラレシコトヲ請  
フ云々トアリタリ依テ茲ニ右ノ趣電報ヲ以テ  
上申シ嚴電ヲ以テ詰責セラレシコトヲ希望ス

二月十一日

方聲濤

ニ右ニ對スル軍政府ノ返電



詔安方會辨宛  
 十一日附ノ貴電拜承、臧軍沙樞、小波嶺一  
 帶ノ地方ニ進攻シタル由右ニ付テハ已ニ電  
 報ヲ以テ劃界分防ヲ實行セヨト詰責  
 シタリ依テ所部ヲ誠メ原防ヲ恪守セ  
 ラレシコトヲ希望ス

二月二十七日

軍政府

發送先

參謀次長  
 外務次官  
 關東都督府陸軍參謀長  
 坂西少將  
 支那駐屯軍司令官  
 上海駐在武官  
 南支駐在武官  
 台灣總督府海軍參謀長  
 同 外事課長

陸軍次官  
 海軍軍令部次長  
 北京公使館附武官  
 中支那派遣隊司令官  
 青島守備軍參謀長  
 南京駐在武官  
 台灣總督府民政長官  
 同 警視總長  
 台灣憲兵隊長

寫

大正八年四月廿二日接受

參謀第九六號

大正八年四月十六日

陸軍省陸軍部

臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第五六號

(時局)

福建ニ於ケル南北西軍ノ形勢

ニ南北平和會議ニ對スル福州人ノ觀察

外務省

南北西軍衝突の變

一福建ニ於ケル南北西軍ノ形勢(福州報告)

福建省内ニ於ケル南北西軍ハ著シキ衝突ヲ見ス  
ト雖モ双方共再戦ノ準備ヲ怠ラス優勢ノ地位  
ヲ占メントシツツアルモノ、如シ諸種ノ情報ヲ綜  
合スルニ南方側ニアツテハ軍費徵發ノ範圍ヲ  
擴メンカ為メ土匪討伐人民不穩ノ名ヲ借リ或ハ  
公然徵發ヲ號稱シテ守備線外ニ出テントスル  
ノ狀況アリ又北軍側ニアツテモ常ニ戦線ノ整理  
ヲ為スニ怠ラス軍隊ノ移動ヲ為シツツアリ一  
例ヲ舉シハ北軍王永泉ノ旅團ハ寧ニ勦匪ノ為  
ニ派遣セラレタルモノナリト聲明セルニ拘ラス其  
配置ハ全然對南軍ノ形式ニアリテ已ニ其一團ハ

外務省

最前線ノ一部ナル沙縣(帶ニ派遣セラレ南軍ト  
接觸シツツアリ以上ノ如ク南北西軍共其行動  
ハ誤解ヲ生シ易キ點多ク之カ為メ双方ノ當局  
者(李厚基陳炯明)間及北京政府廣東政府在  
上海平和會議代表者ノ間ニ電報ノ交渉絶エサ  
ル情況ナリ  
最近ノ情報ニ依リハ厦門方面ハ西軍ヨリ空員ヲ鼓浪  
嶼ニ派遣シ界線ヲ決定シ延平方面ハ前敵司令ヲ  
シテ辦理セシムルコトニ相方ノ協議纏リタリト

原書ハ各國內政關係雜誌(支那)第卅六号ニ在リ



附正  
視受04983號

大正八年四月卅日 臺灣總督府陸軍參謀部 第一課

臺參謀第一〇〇號

大正八年四月十九日

臺灣總督府陸軍參謀部

支那局



南支情報第五九號

(時局)

福建省長陳炯明ノ戰線境界

劃定ニ關スル電

5-1415

0098

一、福建省長陳炯明ヨリ福建ニ派員  
劃界ヲ要求セシ電  
至急電報。廣州各總裁、上海唐總代表

宛  
曩ニ江蘇督軍李純(秀山)ヨリ劃界辨  
法ノ電報アリシモ李厚基ハ今ニ至ル迄  
之ニ準據シテ確實ニ履行セズ最近更  
ニ沙縣尤溪一帶ノ旧守地ヲ越エテ兵  
ヲ進メ富口地方ニ侵襲セリ為ニ我カ  
軍五條ニ遵照シテ守地ヲ守ルヲ得  
ス又一方ニ於テハ我カ防禦線ニ兵ヲ  
進メ我カ軍ヲシテ自衛上立タサルヲ

得サラシム若シ再ヒ如此事アラハ實ニ  
和局ノ障礙ナリ請フ速ニ詰電ヲ發  
シ且唐總代表ハ福建省ニ員ヲ派シ  
双方會同シ戰線ヲ安定センコトヲ  
切望ス

三月十一日  
陳炯明

二、陳炯明ヨリ福建省ニ派員劃界  
ノ一事ヲ以テ妥議ノ前提トナシ  
以テ解決ヲ早ヤメント請ヒタル電  
文



至急電報。廣州軍政府總裁諸公上海  
和議唐總代表宛  
閩省ニ於ケル劃界ノ件ニ付キ李厚基カ  
延引シテ照辨セサルコトハ前ニ已ニ電陳  
シタル所ナリ目下双方ノ軍隊常ニ誤解  
アリ彼此難詰シ徒ニ口舌ヲ費シ居レ  
リ然ルニ今ヤ和議再ヒ開カレタリト  
聞ク就テハ是非閩省ニ於ケル派員劃  
界ノ一事ヲ以テ妥議ノ前ニ提出シテ  
速カニ解決シ以テ軍隊及人民ヲシテ  
共ニ安心セシメラレシコトヲ請フ而シテ  
事斯クノ如クナランニハ和局モ容易ニ進

行センノミ愚見斯クノ如シ尚ホ電示  
御指教アラシコトヲ祈ル  
三月十九日 陳炯明 督首

三政務會議ヨリ福建省長陳炯明  
ニ對シ回答シタル電文  
漳州陳省長宛  
十一日及十九日發ノ兩電拜誦、已ニ唐  
總代表ニ電達シ速カニ商弁セシメタリ  
三月二十二日 政務會議



四、陳炯明ヨリ派員劃界ノ見合セ  
ヲ申請セル電

李厚基ハ南北兩軍ノ境界問題ニ對  
シ右翼方面ハ童葆喧及臧致平ヲシ  
テ辦理セシムヘキヲ以テ屬員ヲ鼓浪島  
ニ派遣シ右翼界線ヨリ規定シ左翼ハ  
別ニ前敵司令ヲシテ辦理セシムヘシト  
要求セリ依リテ之ヲ承諾シタルヲ以テ  
曩ニ平和會議ニ請求セシ派員劃界  
ノ件ハ暫ク見合セラケラフ

四月四日

陳炯明

發送先

參謀次長  
外務次官  
關東都督府陸軍參謀長  
坂西少將  
青島守備軍參謀長  
上海駐在武官  
南支駐在武官  
臺灣總督府海軍參謀長  
同 外事課長

陸軍次官  
海軍々令部次長  
北京公使館附武官  
支那駐屯軍司令官  
中支那派遣隊司令官  
南京駐在武官  
臺灣總督府民政長官  
同 警視總長  
臺灣憲兵隊長

寫

大正八年五月八日接受

秘受口五二五〇號

台參謀第一〇五號

大正八年四月二十九日

臺灣總督府陸軍參謀部

南支特報第一七號

(時事)

南支近況(四月下旬)

外務省





福建方面

福建方面  
 福建省内ニ於ケル南北西軍ハ停戦以來概ネ附屬  
 ニシテ如キ線ニ於テ相對峙シアルモ物資調解或ハ  
 軍資調達ノ為西軍共ニ守備線ヲ越エテ行動  
 シ而シテ互ニ其犯約ヲ詰問シ或ハ針小棒大ニ上  
 シニ報告シ或ハ議和會議ニ派員畫界ヲ要望ス  
 ル所アリシモ四月ニ入り李厚基ヨリ南北西軍ノ  
 境界問題ニ對シ厦門方面ハ童葆宣及臧致平ヲ  
 シテ解理セシムルキヲ以テ屬員ヲ鼓浪嶼ニ派遣  
 シ協定セシメ延平方面ハ前敵司令ヲシテ處理セ  
 シメタシト要求シ陳炯明之ヲ義諾シ在鼓浪嶼

外務省

林李商ノ居宅ニ西軍委員會合スルニ至リ爾後在  
 福建南北西軍ハ稍意志疎通ニ事端減少ス  
 ルノ傾向ヲ呈セリ  
 然レトモ西軍共ニ軍資缺乏ノ結果苟モ其資源  
 トナシ得ルモノハ之ヲ強奪シ嬰粟栽培ノ如キモ  
 陽ニ之ヲ禁シ陰ニ加税シテ默許スル等ノ策ヲ弄  
 シ人民ヲ虐待スルコト甚タシキモノアル為福建  
 省唯一ノ財源タリシ南洋華僑ヨリスル送金  
 ノ如キモ大ニ減少シ省内日ヲ逐フテ廢殆ニ向  
 ハントス

原書：各國內政關係雜誌(支那)第三十六ニアリ

寫

大正八年五月十日接受

秘受五三七一號

台參謀第一〇七號

大正八年四月二十九日

臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第六四號

南支雜件

外務省

5-1415

0104

前略

三、北兵、軍費窮乏ト同安、馬巷地方  
農民ニ對スル誅求

廈門附近ニ於ケル浙江軍、其財政稱豊富ナルモ北兵ニ至リテハ軍費窮乏ヲ極メ今日マテ約一百萬元ノ俸給未拂トナリ居レリト此間同安、馬巷、西地方ニ於ケル阿片枝除ハ英國、嚴談ト北京政府、嚴命アリシニ拘ラス依然一般農民ヨリ抽収捐ヲ徵收シ以テ燒眉ノ急ニ應シアルノ状態ニシテ從來一畝ニ付六元七十仙位ノ徵稅額ナリシモノ現今ニテハ一畝ニ付約十元ヲ徵收サルルニ至リ農民ハ益々其誅求ニ苦

外務省

ミツツアリ加フルニ軍隊ト地方農民間ニ所謂軍費提供請負者ナルモノアリ地方文武官憲ト結托シテ良民ヲ魚肉ノ如ク誅求シ私囊ヲ肥シツツアリ浙江師長童保喧ハ彼等ヲ逮捕セントミツツアルモ北軍ハ之等ノ力ニ依リ徵收セル資金ニ依リ生活セルノ情態ナルヲ以テ其ノ逮捕ヲ敢行セサルノ現状ナリ為ニ住民ハ益々悲惨ノ苦境ニ陥リ省内日ヲ逐フテ廢殆ニ向ヒツツアリ

四、福建ニ於ケル南北軍ノ劃界問題

福建ニ於ケル南北西軍、劃界議定ハ陳炯明ノ代表鄭豐稔及ヒ曾某、童保喧並臧致平ノ代表高全忠及

李副官、四名、廈門鼓浪嶼三坵田林李高（現今支隊司令）  
 司、令、ヲ、辭、シ、開、地、ニ、在、リ、（洋館ニ集合シ、洪守郷、吳禮和、ノ、二、名、中、間、ハ、調、者、ト、ナ、リ、討、議、シ、九、龍、江、南、岸、ノ、南、軍、ハ、海、澄、縣、城、ニ、駐、シ、北、軍、ハ、浮、宮、ヲ、領、有、シ、又、全、江、北、岸、ニ、於、テ、ハ、南、軍、ハ、江、東、橋、ニ、北、軍、ハ、祭、店、（石尾、ノ、西、方）ニ、駐、セ、シ、各、守、備、線、内、ノ、土、匪、ハ、各、々、自、軍、ニ、於、テ、討、伐、シ、得、ル、モ、名、ヲ、剿、匪、ニ、藉、リ、守、備、線、ヲ、越、シ、進、略、ス、ル、ヲ、得、サ、ル、コ、ト、ヲ、決、議、シ、已、ニ、西、軍、代、表、ハ、今、調、者、ト、同、道、現、地、ニ、就、テ、劃、定、ス、ル、ヲ、出、發、セ、リ、  
 又、全、般、ノ、劃、界、ニ、就、テ、ハ、北、方、ハ、薩、鎮、冰、ヲ、代、表、ト、シ、南、方、ハ、林、保、懌、ヲ、派、遣、シ、テ、西、軍、接、近、地、矣、ヲ、直、接、實、視、ス、ル、答、ナ、リ、ト、傳、ハ、ラ、ル、モ、林、ハ、今、以、テ、廣、東、ニ、在、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、現、在、西、軍、ノ、駐、防、地、ハ、過、般、北、軍、ノ、石、旅、長、カ、侵、略、セ、ル、所、多、キ、ヲ、以、テ、陳、炯、明、ハ、之、ニ、滿、足、ス、ル、ヤ、否、ヤ、不、明、ナ、リ、

外務省

原書：各國內政關係雜纂（支那）第三十六ニ在リ

